

令和6年度 畜産クラスター 情報交換会報告書

令和6年度畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（全国推進事業）



令和7年3月

公益社団法人 中央畜産会

令和6年5月に「食料・農業・農村基本法」が制定から四半世紀を経て初めて改正されました。この改正では基本理念に食料安全保障の確保を掲げるとともに、農業生産基盤の確保に向けて国内への食料供給に加え海外への輸出を図ることが明記されました。

畜産の取りまく状況は、輸入飼料や資材価格の高止まり、人材費の高騰などにより畜産物の生産コストが上昇する一方、消費者行動の変化により、牛肉価格が低迷するなど畜産業界は厳しい環境下にあります。畜産の持続性維持のためには、今後も耕畜連携の推進などにより国産飼料の生産拡大を図るなど、足腰の強い畜産経営を確立していくことが重要です。また、労働不足に対応するためIT技術やロボット技術を活用した省力化や、地球環境を守りつつ畜産生産に取り組むことが重要になります。

地利用条件に大きく制約を受ける等、限られた資源を活用せざるを得ない我が国の畜産においては、個々の畜産経営体の努力だけでは解決できない課題が多くあります。そこで、農林水産省では「畜産経営を核に、行政、畜産関連組織・産業、地域住民等が結集し、地域ぐるみで畜産の収益力向上を図る体制（畜産クラスター）」の構築により、地域の畜産生産基盤の強化を推進するための諸施策を平成26年度から推進しています。本施策では、個人では対応の難しい課題であっても、関連する人々・産業が連携し合うことで個々の資源・ノウハウを結集させ地域が一丸となることで、解決策への道が開けるという考え方（畜産クラスター計画）の基本方針が掲げられています。

本会では畜産クラスターの全国的な普及推進のための事業の一環として、平成28年度から畜産クラスター情報交換会を開催しています。畜産クラスター事業を活用して施設整備や機械導入を行った地域のクラスター協議会関係者を参集して、これまでの活動内容を報告するとともに、取組上の課題やその解決策、今後の取組について情報交換を行い、各協議会の今後の活動の参考としていただきました。

関係各位におかれましては、畜産クラスター協議会の取組み等の参考資料として本報告書をご活用いただければ幸いに存じます。

令和7年3月
公益社団法人中央畜産会

目次

1	令和6年度畜産クラスター情報交換会（開催概要）	1
2	Web 情報交換会プレゼン資料・動画	3
	① 北川養鶏場クラスター協議会（三重県）	4
	② 飼料米生産活用協議会（兵庫県）	7
	③ 熊本県酪農クラスター協議会（熊本県）	9
	④ 熊本県畜産振興クラスター協議会（熊本県）	24
	⑤ 静岡県西部酪農経営継承協議会（静岡県）	25
3	事前質問レポート	29
4	Web 情報交換会の様子	43
5	情報交換会（議事録）	47

1 令和6年度畜産クラスター情報交換会（開催概要）

令和7年1月16日(木)～1月22日(水)

【プレゼン動画の事前視聴と質問レポートの提出】

- 畜産クラスター協議会の目標について
- 目標達成に向け、最も重点的に取り組んでいる内容について
- 目標達成度（実績・成果）を把握するための仕組み・体制について
- 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題について

プレゼン動画掲載（参照：P.3～28）

事前質問レポート（参照：P.29～41）

令和7年1月24日(金)

【Zoom準備・配信テスト】12:00～13:00（60分）

【Zoom招待】13:00～13:30（30分）

畜産クラスター情報交換会 13:30～17:00（3時間30分）

【プレゼン動画に関する事前質問の確認】13:30～14:30（60分）休憩15分

※コメンテーターからの質問・確認含む

コメンテーター：令和6年度畜産クラスターコーディネーター養成研修講師

（株）伊東ビジネスプランニング 代表取締役 伊東 祐孝 氏

山崎農業経済研究所 所長 山崎 政行 氏

元農研機構 生研支援センター 研究開発監 土肥 宏志 氏

【全体討論1】14:45～15:45（60分）休憩15分

【全体討論2】16:00～17:00（60分）

※2つのテーマ設定

※Zoomによる動画撮影と議事録音（リモート収録：動画制作業者）

※情報交換会の記録として報告書用の議事メモ作成（事務局）

情報交換会議事録（参照：P.47～92）

2 Web 情報交換会プレゼン資料・動画

-
- | | | |
|------|--------------------------------------|---|
| No.1 | 鈴鹿養鶏拡大クラスター協議会
北川養鶏場クラスター協議会（三重県） | 4 |
|------|--------------------------------------|---|
-
- | | | |
|------|-------------------------------|---|
| No.2 | 飼料米生産活用協議会
飼料米生産活用協議会（兵庫県） | 7 |
|------|-------------------------------|---|
-
- | | | |
|------|---|---|
| No.3 | 畜産クラスター事業（機械導入事業）における熊本県酪農の取り組み
熊本県酪農クラスター協議会（熊本県） | 9 |
|------|---|---|
-
- | | | |
|------|---------------------------------------|----|
| No.4 | 熊本県畜産クラスター協議会
熊本県畜産振興クラスター協議会（熊本県） | 24 |
|------|---------------------------------------|----|
-
- | | | |
|------|---|----|
| No.5 | 畜産クラスター情報交換会
雇用型酪農経営による経営継承モデルの確立
静岡県西部酪農経営継承協議会（静岡県） | 25 |
|------|---|----|
-

協議会名：北川養鶏場クラスター協議会

令和6年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート①

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、事前にご記入のうえ、令和6年12月18日(水)までにメールもしくはFAXにてご提出ください。記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、各協議会のプレゼン動画撮影の資料としますので、なるべく具体的に列挙してください。

===== 以下、事前課題レポート =====

- 1 以下の選択肢より協議会として取り組んでいる内容すべてに○印をつけ、最も重点的に取り組んでいる内容について具体的に書いてください。

《選択肢》

- ①新規就農の確保 ②担い手の育成 ③労働負担の軽減
④飼養規模の拡大、飼養管理の改善 ⑤自給飼料利用の拡大 ⑥畜産環境問題への対応

《最も重点的に取り組んでいる内容》 ④ 飼養規模の拡大、飼養管理の改善

- 2 あなたが所属している畜産クラスター協議会の目標について書いてください。

採卵鶏の増羽。

- 3 目標達成に向け、最も重点的に取り組んでいる内容を書いてください。

飼養規模の拡大ウィンドレス鶏舎建設による、増羽、鶏卵生産の効率化

- 4 目標達成度（実態・成果）を把握するための仕組み・体制を書いてください。

成果報告ヒアリング（産卵率データ）

- 5 現在の目標達成度（成果）及び目標達成に向けて解決すべき課題を書いてください。

産卵率の低下、卵重量が思う様に乗らず、成果目標に達成できなかった。

卵価の推移については、不透明な部分になるが為、大幅な改善策がない。

令和6年度畜産クラスター情報交換会に係る事前レポート②

畜産クラスター情報交換会で使用する資料としますので、下記設問を【記入例】を参考にご記入の上、令和6年12月18日(水)までに、メールもしくはFAXにてご提出ください。各協議会のプレゼン動画撮影の資料とします。
記入方法については、「飼養頭数」「飼料用米栽培面積」等、重点的に取組んでいる内容を3つ選び、具体的に記載してください。

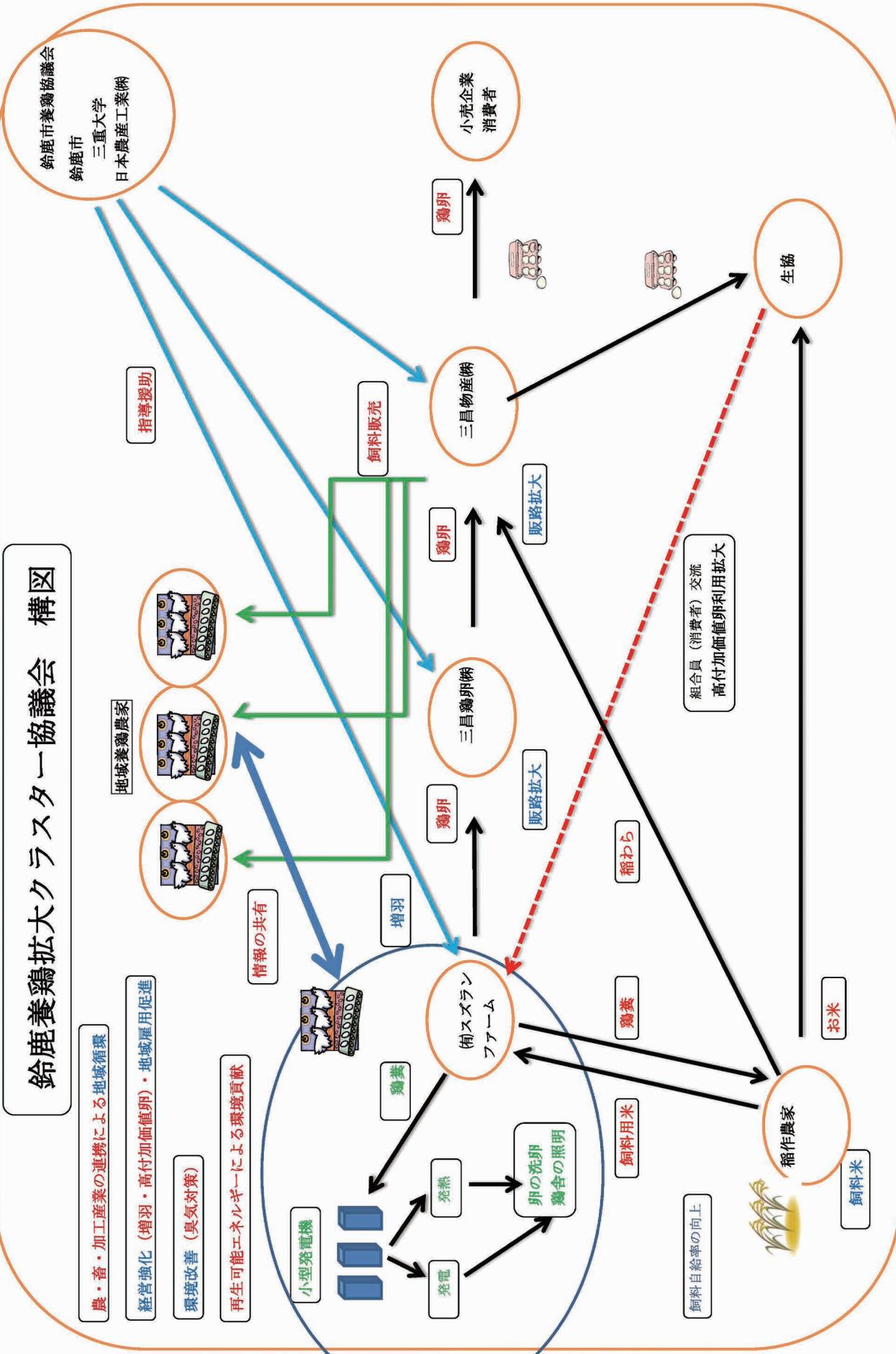
取組内容 (目標項目)	起点となる値	現状値	目標値	自己評価	要因分析・課題
	H29年度	R5年 7月	R2年度		
採卵鶏の増羽	54,000羽	60,000羽	60,000羽	目標通りの成果が出ている	強制換羽、入れ替え時での増減はありますが、収容羽数としては60,000羽採卵場として既に運用されておりです。
鶏卵生産量の増量	75トン/年間	98トン/年間	90トン/年間	目標通りの成果が出ている	飼養環境の改善により、生産性が向上している為、鶏卵生産量は増えている状況です。(R4.1～R5.5 数量より年度着地数量算出し平均値を入力。)
生存率の向上	89%	95%	90%	目標を上回る成果が出ている	飼養環境の改善により、生存率が上がっている為、目標を達成している状況です。R5.5までの実績%を入力しております。
地域生産者による発酵鶏糞の使用	0トン/年間	25トン/年間	20トン/年間	目標を上回る成果が出ている	田んぼの縮小があり、使用量減少したが、広域に供給することができた。継続して地域、既存取引先への供給を続けていきます。

【取組内容(目標項目)について】

取組内容(目標項目)は、次のような具体的な内容の中から適宜選択の上、記載してください。
例)

- ①労働時間の削減、②飼養頭数の増大、③生乳生産量の拡大、④性別別受精卵(精液)の使用数の増加
- ⑤堆肥センターへの搬入量の増加、⑥堆肥販売量の増加 など

鈴鹿養鶏拡大クラスター協議会 構図



【飼料米生産活用協議会の推移】

当初の循環型農業

飼料米をニワトリに給餌



プラス稲わら循環型農業

これまで漉き込んでいた稲わらを牛に給餌し、牛糞で圃場の土づくり



SGS導入循環型農業

飼料コストの削減と自給濃厚肥料による高栄養な肥育を実現

さらに良い

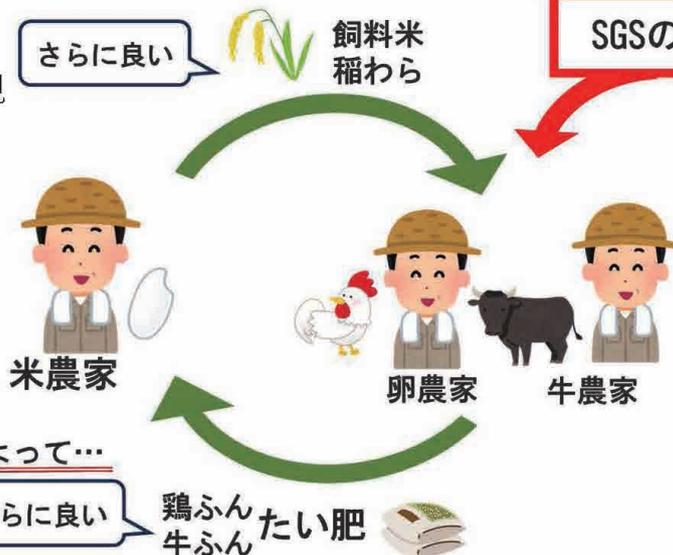
SGSの導入



SGSの導入によって...

さらに良い

鶏ふんたい肥



畜産クラスター事業（機械導入事業） における熊本県酪農の取り組み

熊本県酪農クラスター協議会

協議会設立経緯

流通飼料高止まり等の経営環境悪化、酪農従事者の高齢化・後継者不足等
による生産基盤の弱体化

→生乳生産量の減少



生産基盤強化・生産乳量維持を図る

→生乳生産減少緩和・自給飼料生産・高付加価値化・和牛生産

協議会設立経緯

平成27(2015)年3月9日設立

同年3月20日クラスター計画認定

構成員

熊本県酪農業協同組合連合会、熊本県農林水産部生産経営局畜産課、
(公社)熊本県畜産協会、熊本県乳牛改良同志会、
熊本県酪農青壮年部協議会

平成28(2016)年2月17日

構成員に全国酪農業協同組合連合会を追加

5

取組内容

新規就農の確保

担い手の育成

労働負担の軽減

飼養規模の拡大、飼養管理の改善

→1戸当たり生産乳量増、熊本県受託乳量維持

自給飼料利用の拡大

→水田・耕作放棄地の有効活用、飼料費削減

令和5年度以降飼料増産優先枠にて取組

畜産環境問題への対応

7

機械導入事業導入実績

2024/12/17現在

事業年度	導入件数	事業費 (百万)	主な導入機械
平成28年度	150	749	ミキサーフィーダー(17件)、ローダー(17件)、ロールベラー(13件)等
平成29年度	83	488	ミキサーフィーダー(13件)、ローダー(9件)、モア(6件)等
平成30年度	78	377	ローダー(9件)、ミキサーフィーダー(8件)ラッピングマシン(5件)等
令和元年度	46	323	ローダー(7件)、ミキサーフィーダー(4件)、トラクター(3件)等
令和2年度	32	131	ローダー(7件)、ロールベラー(3件)、ミキサーフィーダー・レーキ・ラッピングマシン(2件)等
令和3年度	26	180	ローダー(5件)、ミキサーフィーダー(4件)、ラッピングマシン・バルククーラー(2件)
令和4年度	37	232	ミキサーフィーダー(6件)、ロールベラー(5件)、テッター・ラッピングマシン(3件)
令和5年度	39	162	ラッピングマシン(7件)、モア(5件)、ローダー(4件)等
令和6年度	3	10	汎用型飼料収穫機、ローダー
累計	494	2,661	ローダー(63件)、ミキサーフィーダー(54件)、ラッピングマシン(38件)等

※ローダーにはホイルローダー、フロントローダー、SSL含む ミキサーフィーダーは自走式、牽引式合計
 ロールベラーはカッティングロールベラーを含む モアはディスクモア、モアコン、フロントモア等含む

9

機械導入事業導入実績

2024/12/17現在

事業年度	導入件数	事業費 (百万)	主な導入機械
平成28年度	150	749	ミキサーフィーダー(17件)、ローダー(17件)、ロールベラー(13件)等
平成29年度	83	488	ミキサーフィーダー(13件)、ローダー(9件)、モア(6件)等
平成30年度	78	377	ローダー(9件)、ミキサーフィーダー(8件)ラッピングマシン(5件)等
令和元年度	46	323	ローダー(7件)、ミキサーフィーダー(4件)、トラクター(3件)等
令和2年度	32	131	ローダー(7件)、ロールベラー(3件)、ミキサーフィーダー・レーキ・ラッピングマシン(2件)等
令和3年度	26	180	ローダー(5件)、ミキサーフィーダー(4件)、ラッピングマシン・バルククーラー(2件)
令和4年度	37	232	ミキサーフィーダー(6件)、ロールベラー(5件)、テッター・ラッピングマシン(3件)
令和5年度	39	162	ラッピングマシン(7件)、モア(5件)、ローダー(4件)等
令和6年度	3	10	汎用型飼料収穫機、ローダー
累計	494	2,661	ローダー(63件)、ミキサーフィーダー(54件)、ラッピングマシン(38件)等

※ローダーにはホイルローダー、フロントローダー、SSL含む ミキサーフィーダーは自走式、牽引式合計
 ロールベラーはカッティングロールベラーを含む モアはディスクモア、モアコン、フロントモア等含む

10

導入実績多い機械について

ローダー

収穫作業効率化に向けた導入が多い傾向

1台体制→2台体制等

ミキサーフィーダー

飼養規模拡大に伴う大型化での導入が多い傾向

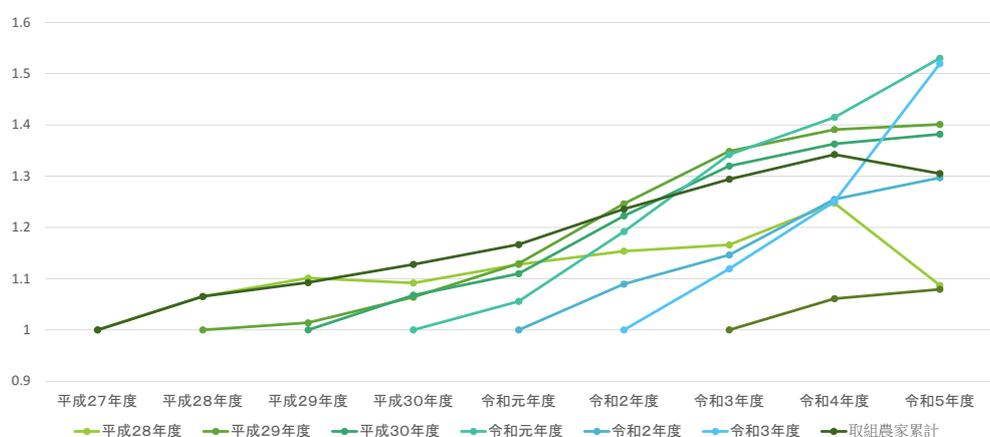
ラッピングマシン

ロールベアラー2台体制、汎用型飼料収穫導入に伴う導入

11

取組主体累計の事業前後の乳量増加率 (事業実施前比)

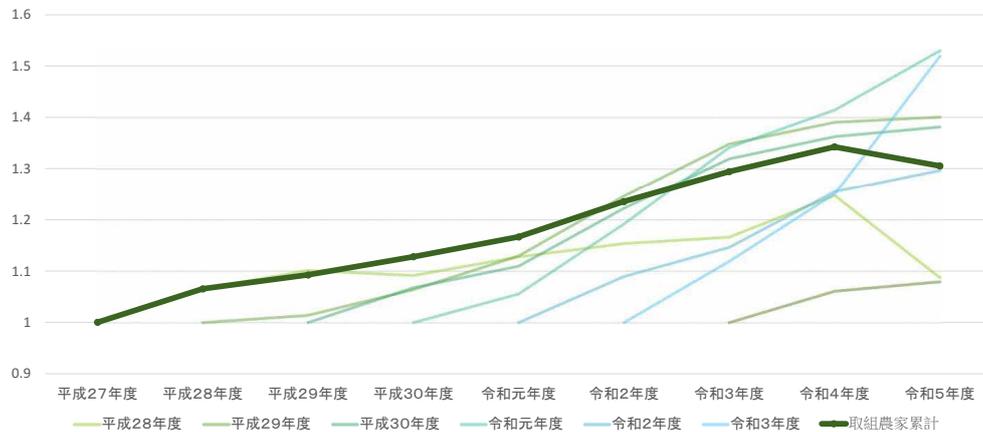
※事業実施前を1とした場合



14

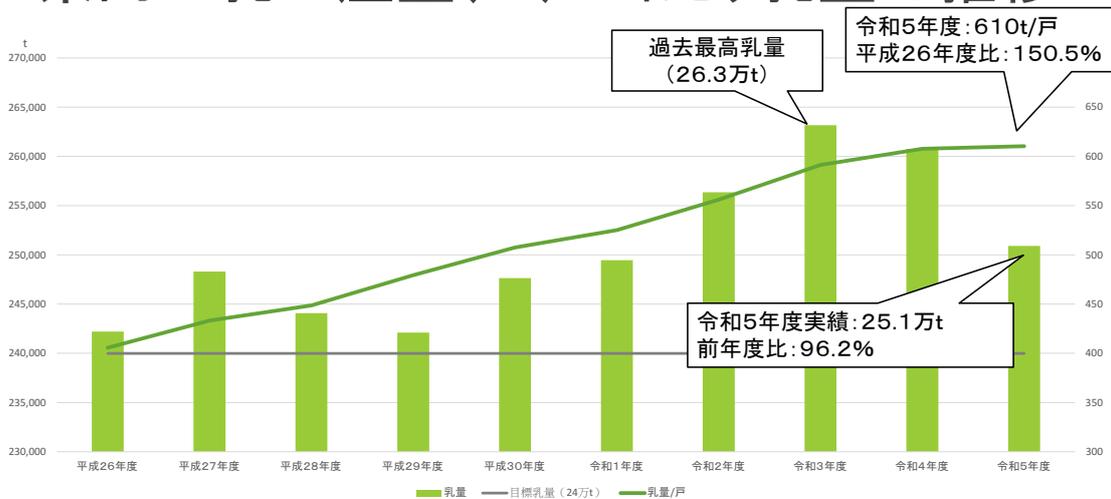
取組主体累計の事業前後の乳量増加率 (事業実施前比)

※事業実施前を1とした場合



15

県内生乳生産量、1戸当たり乳量の推移



17

令和6年度報告分成果目標達成状況

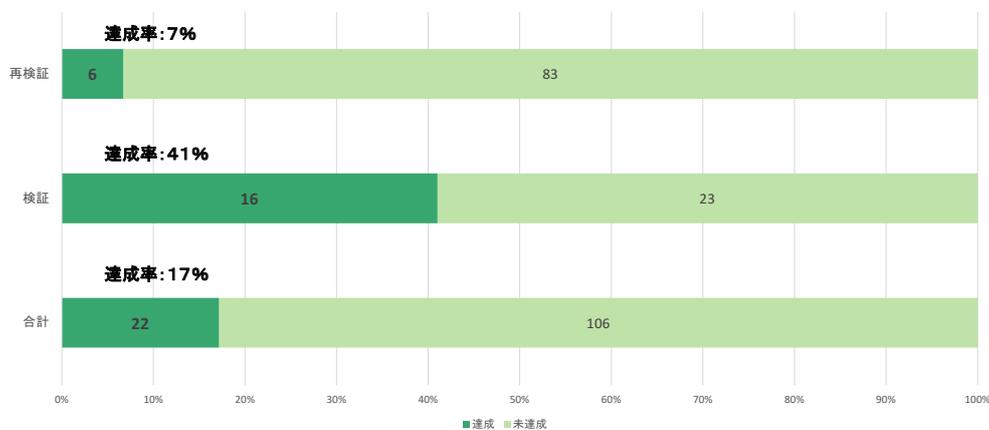
※機械件数ベース

		事業年度							合計
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
再検証以降	達成	1件	0件	4件	1件	0件			6件
	未達成	6件	28件	32件	8件	9件			83件
	達成率	14%	0%	11%	11%	0%			7%
検証	達成					2件	8件	6件	16件
	未達成					0件	15件	8件	23件
	達成率					100%	35%	43%	41%
合計	達成	1件	0件	4件	1件	2件	8件	6件	22件
	未達成	6件	28件	32件	8件	9件	15件	8件	106件
	達成率	14%	0%	11%	11%	18%	35%	43%	17%

19

令和6年度報告分成果目標達成状況

※機械件数ベース



20

令和6年度報告分までの成果目標達成状況

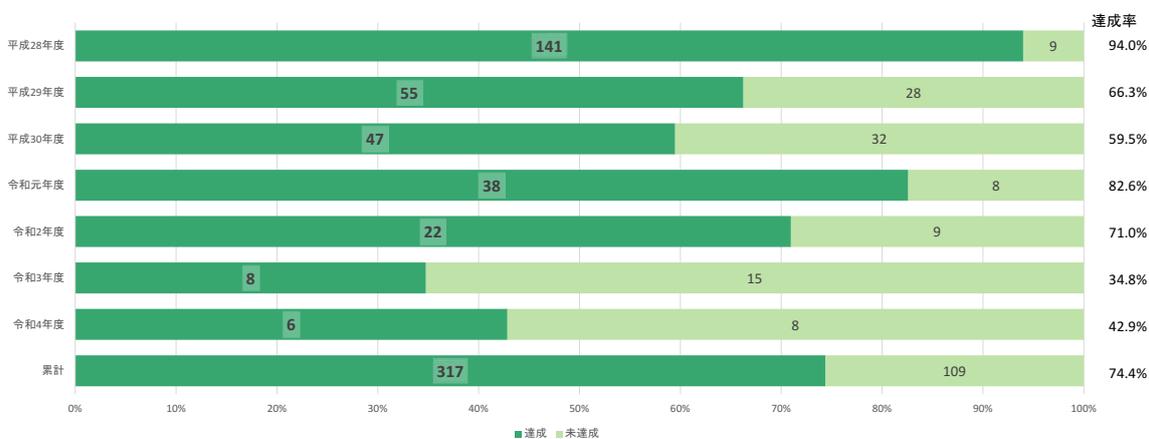
※機械件数ベース

事業年度	導入件数	達成	未達成	達成率
平成28年度	150件	141件	9件	94.0%
平成29年度	83件	55件	28件	66.3%
平成30年度	79件	47件	32件	59.5%
令和元年度	46件	38件	8件	82.7%
令和2年度	31件	22件	9件	71.0%
令和3年度	23件	8件	15件	34.8%
令和4年度	14件	6件	8件	42.9%
累計	426件	317件	109件	74.4%

21

令和6年度報告分までの成果目標達成状況

※機械件数ベース



22

未達の理由について

1. 世界情勢(コロナ・ウクライナ侵攻・円安等)の影響
 - 飼料価格高騰→給餌メニュー変更の影響で乳量低下
 - 資材価格高騰→牛舎増築計画等の行き詰まり
2. 労働力不足
 - 経営者又は家族の病気、後継予定者の未就農
3. 天候の影響
 - 猛暑による暑熱期の乳量低下

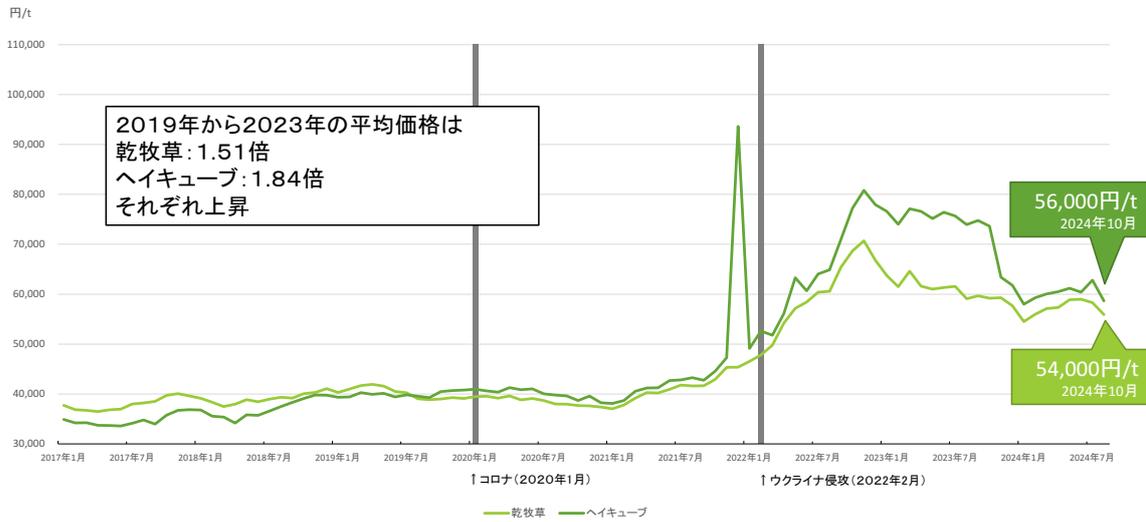
23

未達の理由について

1. 世界情勢(コロナ・ウクライナ侵攻・円安等)の影響
 - 飼料価格高騰→給餌メニュー変更の影響で乳量低下
 - 資材価格高騰→牛舎増築計画等の行き詰まり
2. 労働力不足
 - 経営者又は家族の病気、後継予定者の未就農
3. 天候の影響
 - 猛暑による暑熱期の乳量低下

24

輸入粗飼料の価格の推移



一般財団法人Jミルク、2. 酪農経営関連の基礎的データ、(6)飼料関連(国内・海外)よりデータ取得
<https://www.j-milk.jp/gyokai/database/keiei-kiso.html#hdg11> 25

濃厚飼料価格の推移



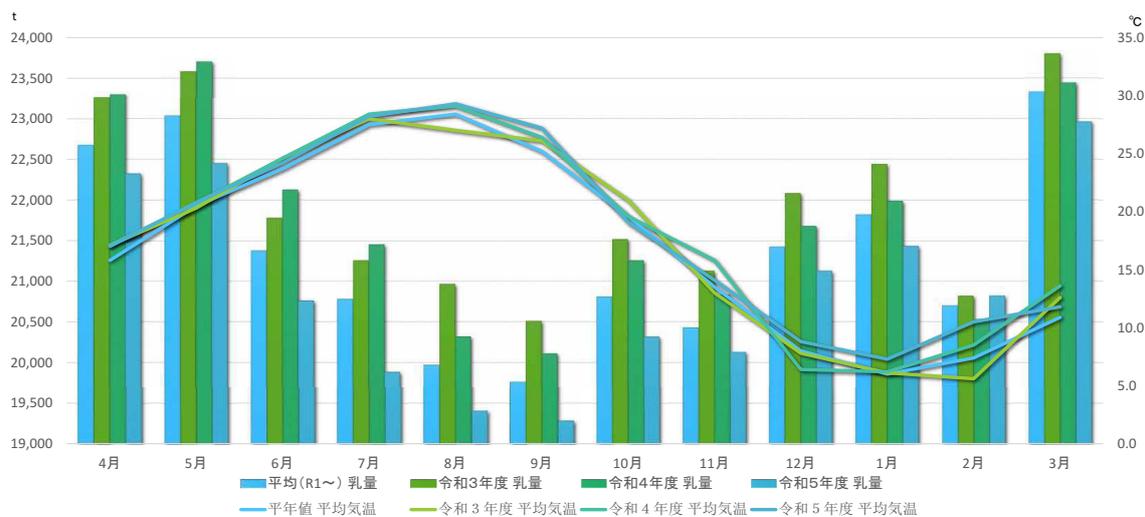
一般財団法人Jミルク、2. 酪農経営関連の基礎的データ、(6)飼料関連(国内・海外)よりデータ取得
<https://www.j-milk.jp/gyokai/database/keiei-kiso.html#hdg11> 26

未達の理由について

1. 世界情勢(コロナ・ウクライナ侵攻・円安等)の影響
 - 飼料価格高騰→給餌メニュー変更の影響で乳量低下
 - 資材価格高騰→牛舎増築計画等の行き詰まり
2. 労働力不足
 - 経営者又は家族の病気、後継予定者の未就農
3. 天候の影響
 - 猛暑による暑熱期の乳量低下

27

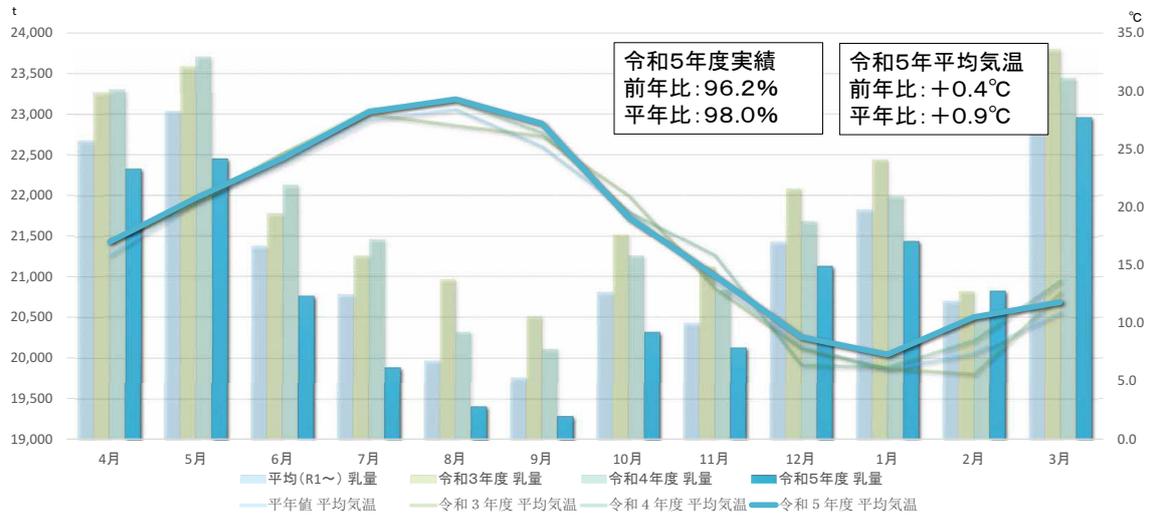
令和3年度以降の県内の月別乳量推移



気象庁、過去の気象データ、熊本県 熊本よりデータ取得
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php?prec_no=86&block_no=47819&year=&month=&day=&view=

28

令和3年度以降の県内の月別乳量推移



気象庁、過去の気象データ、熊本県 熊本よりデータ取得
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php?prec_no=86&block_no=47819&year=&month=&day=&view=

本年度の状況

マイナス要因

昨年以上の猛暑→県内の出荷乳量も昨年比減

依然として飼料・資材価格高騰

春先の長雨による自給飼料の量・質の減少、低下

プラス要因

10月以降は配合飼料価格(▲4,700円/t)が低下

本年度の状況

マイナス要因

昨年以上の猛暑→県内の出荷乳量も昨年比減

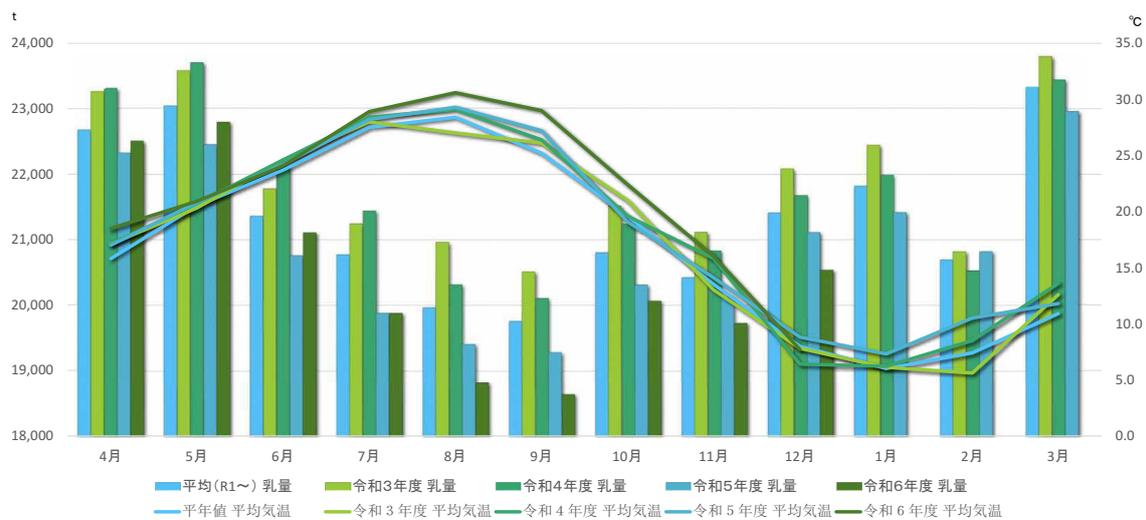
依然として飼料・資材価格高騰

春先の長雨による自給飼料の量・質の減少、低下

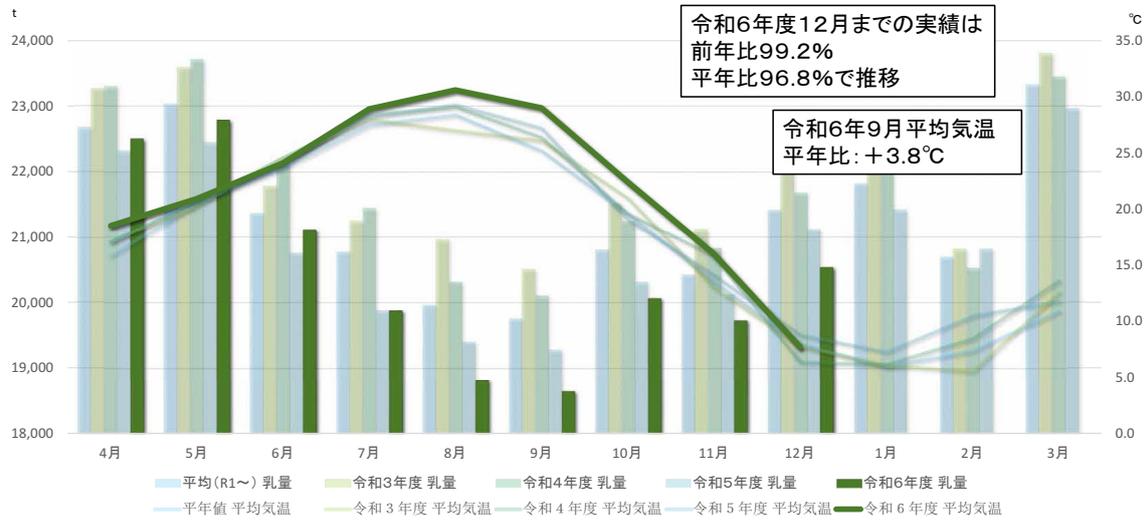
プラス要因

10月以降は配合飼料価格(▲4,700円/t)が低下

令和3年度以降の県内の月別乳量推移



令和3年度以降の県内の月別乳量推移



気象庁、過去の気象データ、熊本県 熊本よりデータ取得
https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php?prec_no=86&block_no=47819&year=&month=&day=&view=

本年度の状況

マイナス要因

昨年以上の猛暑→県内の出荷乳量も昨年比減

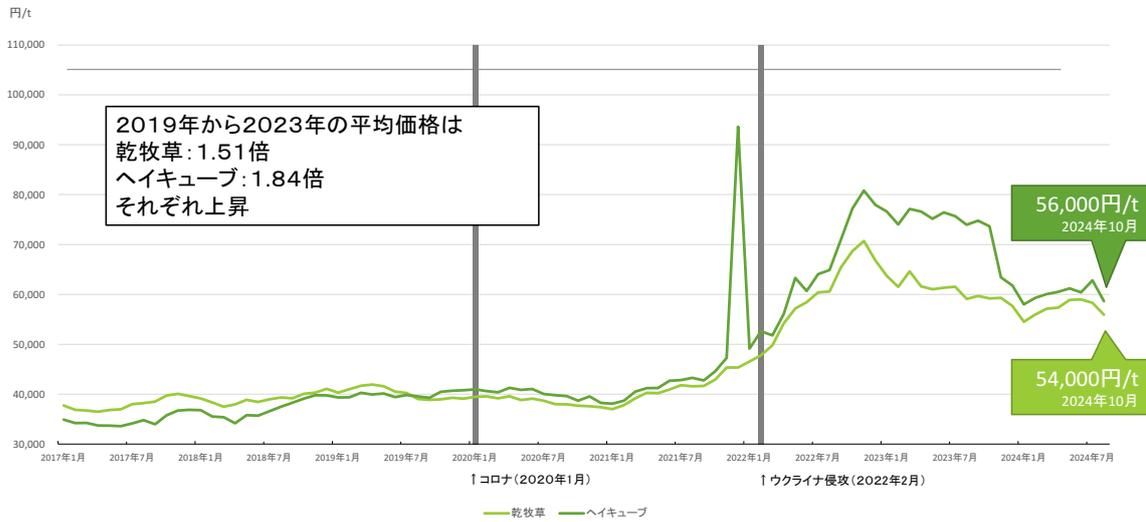
依然として飼料・資材価格高騰

春先の長雨による自給飼料の量・質の減少、低下

プラス要因

10月以降は配合飼料価格(▲4,700円/t)が低下

輸入粗飼料の価格の推移



一般財団法人Jミルク、2. 酪農経営関連の基礎的データ、(6)飼料関連(国内・海外)よりデータ取得
<https://www.j-milk.jp/gyokai/database/keiei-kiso.html#hdg11> 35

濃厚飼料価格の推移



一般財団法人Jミルク、2. 酪農経営関連の基礎的データ、(6)飼料関連(国内・海外)よりデータ取得
<https://www.j-milk.jp/gyokai/database/keiei-kiso.html#hdg11> 36

まとめ

畜産クラスター事業における主な取組内容について

規模拡大による1戸当たりの生乳出荷量の増加 等

→直近では猛暑等の影響があり生乳出荷量は減少したものの、事業活用の効果により省力化等が図られ、全体として1戸当たりの生乳出荷量は増加傾向(近年は情勢により増産に大きく踏み切れない状況)。

国産飼料給与割合の維持・増加 等

→飼料増産枠による取り組みの直接的効果が発揮されるのは今後となるが、飼料価格高騰の影響低減、家畜排せつ物の有効利用等の観点から今後も重要な取り組みとして継続。

38

今後について

飼料増産枠で対象外となっているミキサーフィーダー、堆肥運搬車の要望多い

→農家によっては順調に増頭が進んでいる

厳しい酪農情勢下であるものの、一部農家からは牛舎増築・規模拡大の意向有り

年々平均気温が上昇している状況下にあるため、暑熱対策に特化した事業の必要性が増してくると考えられる

40

熊本県畜産クラスター協議会

○現 状

- ・肉用牛飼養農家 令和元年:2,277戸 令和2年:2,226戸 令和3年:2,093戸 令和4年:2,047戸
- ・肉用牛繁殖頭数 令和元年:41,301頭 令和2年:43,310頭 令和3年:45,567頭 令和4年:45,858頭
- ・正組合員の年齢構成(2,354人) 令和3年3月調査
 60歳以上 1,467人 51歳~60歳 430人 41歳~50歳 254人 31歳~40歳 152人
 21歳~30歳 49人 20歳以下 2人

期待される効果	目標
新規就農の確保	50名程度(年間5名)の新規就農者の増加
飼養規模の拡大、飼養管理の改善	平均飼養規模10%拡大
担い手の育成	分娩間隔13.5ヶ月→12.5ヶ月 肉用繁殖牛(褐毛和種) 13頭/戸→14頭/戸 肉用繁殖牛(黒毛和種) 31頭/戸→34頭/戸
労働負担の軽減	肉用牛関連の1日・1人当たりの労働時間の削減 7.5時間/日→6.75時間/日(10%削減)
自給飼料の拡大	飼養牛1頭当たり作付け延べ面積の拡大 肉用繁殖牛 0.4ha→0.5ha
畜産環境問題への対応	耕種農家との取引契約10%向上

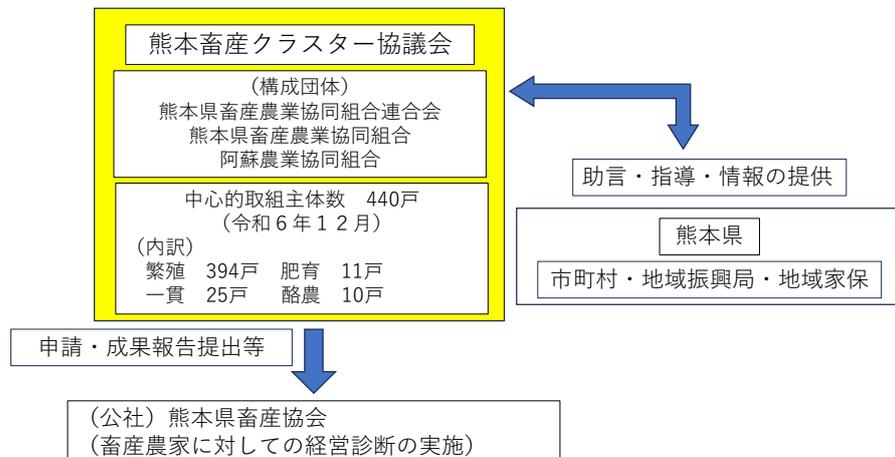
地域の畜産の収益性の向上や労働負担軽減・省力化及び飼養管理技術の高度化のために必要なこと
 ・肉用牛講演会の開催 令和6年12月23日開催 参加人数 81名

熊本県畜産クラスター協議会概要

(設立:平成28年4月1日)

○設立の目的

県内全域の畜産経営者の収益性向上、労働負担軽減・省力化及び飼養管理技術の高度化に向けた計画・目標の策定及び目標達成のための取組を推進することを目的とする。



畜産クラスター情報交換会

雇用型酪農経営による経営継承モデルの確立

静岡県西部酪農経営継承協議会

(株) 伊東ビジネスプランニング

代表取締役 伊東祐孝

酪農家は消えてなくなるかも

- 農林水産省はこの秋、全国の酪農家が初めて1万戸を割ったと報告しています。その原因は円安による海外からの輸入飼料の高騰と子牛価格の低下とされています。
- そのため酪農家の60%が赤字経営、更に50%の酪農家は離農や廃業を予定していると推測されている。
- 結果として残るのは負債などがあり、辞めたくても辞められない酪農家と厳しいながらも経営している酪農家に限られてくる。
- 更に1頭あたりの利益が少ない現状では家族が生活を支えていくためには、最低でも自給飼料と後継牛を自家育成する牧場でも、搾乳牛が60頭以上を飼育する規模でないと難しくなっている。
- それぐらいの規模の牧場を新たに作るとなると資金は2億円程度は欲しくなり、とても新規で始められる物ではない。
- 今後、親から子供に経営を継承していく酪農家だけでは、その地域で酪農家は急激に減少していくのが間違いのない事実である。

第三者による経営継承するためには

- 酪農家の家族間だけで経営継承をしたら、すぐに酪農家、頭数も減少して、地域の畜産産業も衰退する恐れがあった。
- 第三者に牧場の経営継承をすることを考えた場合、牧場を会社で経営して、外から優秀な人材を確保するしかない。第三者による経営継承モデルを作るための組織として、「静岡県西部酪農経営継承協議会」を設立した。
- 実際に会社で牧場を建設するには、日本政策金融公庫などの金融機関が納得するような経営、資金、雇用等の計画を作成して、説明、説得することが重要となった。
- 牧場を建設するために建築士、土地家屋調査士、不動産会社、建築会社などの関連スタッフなどが準備できるようになった。
- 大きな牧場を運営するためには酪農技術以外に経理、人事などの分野にも能力が欲しいことが分かった。それがないと規模拡大しても、負債だけが生まれて経営できない。
- その分野に優秀な人材をどう集めていくのが次の課題に浮かんできた。牧場だけを作るのではなく、「人材育成する経営」をどう展開するかが課題となった。

東海地域 最大規模の牧場建設

- 廃業した肉牛団地の購入話があり、建設費用に畜産クラスター事業と日本政策金融公庫からの融資を利用して、2021年10月に建設工事を始め、2022年10月に牧場を完成した。
- 搾乳牛800頭、乾乳牛200頭、1000頭規模の牧場で、現在も目標に向けて増頭しており、東海地域では最大規模になる予定です。
- 不足する労働力を考慮して機械化を進めており、酪農において労働時間の大半を占めるのが搾乳時間を短縮するために、ロータリーパーラーを採用しており、作業者の負担も少なくなります。
- 乳牛が排泄する糞や尿は牛舎内部で一時発酵させ、更に堆肥舎で自動攪拌することで堆肥作業の軽減をしています。できた堆肥は近隣に農家、ゴルフ場で利用されている。
- 浜名湖の水質改善するために、排水処理にも生乳と糞尿専用浄化槽の2系統を用意しております。

経営しやすい牧場



牧場で働いてもらうためには

- 畜産農家で規模拡大したが、いくら高い給与を提示しても、誰も応募がない、せっかく雇用してもすぐに退職してしまうと言われています。その理由に畜産のイメージ4K（きつい、汚い、危険、臭い）があり、休みが取れないがあります。
- 法人経営の牧場を作るにあたり、畜産のイメージ4Kを払拭するため、作業の機械化、作業服の支給、休憩室、更衣場所、食堂、シャワーなどを完備しておきました。
- 経営責任者に酪農経験はないが、過去に数多くの会社経営をした経営コンサルタント、農場長には大型牧場で働いた経験者を雇用できた。
- 牧場は1日8時間勤務、3勤1休制度の完全実施、人数を多くして休暇を取りやすい作業システムに変えてあります。
- 宿泊もできる部屋があり、積極的に学生等を牧場体験として受け入れている。その結果、牧場のある静岡県以外からもたくさんの応募があり、体験された方がその後、就職してくれている。
- インドネシア、ベトナムなどの海外からも牧場で働きたい方を受け入れている。

牧場の機械化への課題

- 酪農の生産が北海道に移り、企業型の大型酪農が増えて10数年が過ぎている。過疎化が進み、労働力が不足していることから補助事業は「機械化による規模拡大・労働力の不足への対応」にシフトしている。
- 作業工程の全てが機械化できれば効率が上がるが、乳牛というバラつきのある資材では、どうしても「判断」する過程が必要になる。その判断することを人に頼っている限り、規模拡大しても人の負担が増えてしまう。多くの乳牛を個別管理できるのか、細かい対応ができるのかが課題になっている。
- 更に規模拡大した牧場では飼料生産から糞尿処理、畜舎排水などの最初から最後まで過程を機械化できれば良いが、それができないのが今の酪農経営の問題である。どこかの作業に大勢の労働力が必要になっている。
- 機械化すれば労働力の不足は解決できても、初期投資、修繕費の増加は避けられない。安い生乳を生産する酪農で損益計算が可能なのかも課題になっている。

これからの酪農は利益率と雇用が鍵

- 畜産クラスター事業で規模拡大した方が、経営悪化している話が多くあります。特に酪農では乳量の規制、飼料価格の高騰から経営が悪くなり、負債の返済ができない、雇用を維持できないという話を聞くようになりました。
- 利益を生み出すには、利益率を上げるしかない。具体的には飼料と乳代金の比率、乳房炎の乳量廃棄率、分娩後の受胎率、牛の更新率など数字が読める経営をしないと、すぐにお金が消えていきます。
- 牧場単位で考えていた利益も、頭数、労働時間、面積あたり、どれだけあるのかを把握する時代になりました。乳牛という不確定要素の高い資源ですが、それを超えていかないと次の時代の経営にはならない。
- 海外から雇用するから・・・と言っていた牧場も、アジア系諸国の経済が良くなり、円安になると、仲介業者に頼んでも海外から働く人が来てくれない時代になりました。
- 更に外国人の雇用制度が変わったことから、外国人も条件の良い職場に転職するようになり、日本人同様に雇用が難しくなっている。
- 国籍、性別、年齢に関係なく働きやすい労働環境を作らないと誰も働いてくれない時代になっている。

3 畜産クラスター情報交換会に係る事前質問レポート

都道府県名：三重県

勤務先名等：北川養鶏場クラスター協議会

令和6年度畜産クラスター情報交換会に係る事前質問レポート

畜産クラスター情報交換会の Zoom ミーティング時の資料としますので、プレゼン動画を事前に視聴の上、1月22日(水)午前中までに事務局にメールで送信をお願いします。参加者、コメンテータに情報共有し、当日のディスカッションに活用します。

記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、誰に対する質問・意見なのかを明確にし、具体的に記述してください。記載枚数は問いません。

===== 以下、事前質問レポート =====

【熊本県畜産振興クラスター協議会さんに対する質問と意見です】

- 差し支えなければ、
担い手の育成についてお聞きしたいことがあります。
例えば、どういった担い手の育成方法をされているのか、教えていただけますでしょうか。

【飼料米生産活用協議会さんに対する質問と意見です】

- 鶏糞の処理は生産者としては大きな悩みになると思います。その鶏糞を耕種農家さんに使用していただき飼料米を生産していくことはいい取り組みだと思いました。
飼料米の需要が高まっておりますが、今後、飼料米の生産量をどのくらい拡大していくのでしょうか。

【熊本県酪農クラスター協議会さんに対する質問と意見です】

- 今年は猛暑で乳量の低下があったと思いますが、対策等あれば教えていただけると幸いです。

【静岡県西部酪農経営継承協議会さんに対する質問と意見です】

- 乳量上げる為の方法や受胎率向上させる方法等ありましたら教えていただけると幸いです。

令和6年度畜産クラスター情報交換会に係る事前質問レポート

畜産クラスター情報交換会の Zoom ミーティング時の資料としますので、プレゼン動画を事前に視聴の上、1月22日(水)午前中までに事務局にメールで送信をお願いします。参加者、コメンテータに情報共有し、当日のディスカッションに活用します。

記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、誰に対する質問・意見なのかを明確にし、具体的に記述してください。記載枚数は問いません。

===== 以下、事前質問レポート =====

【北川養鶏所クラスター協議会さんに対する質問と意見です】

- 生存率の向上について、現在の状況が95%と近年の猛暑を考えると驚くべき数値ですが、この数値はOUT時での生存率の数値、ということで宜しいのでしょうか？是非ともその管理方法を教えてください。
- 鶏卵生産量の増量として、75トン/月(ですよね)ではかなり厳しい状況だったと思います。同じ養鶏業として、近年の飼料高騰に対する対策などあれば教えてください。
- 協議会の構図より 鶏糞を小型発電機の燃料にされているのですね。この発電機も補助金を活用して導入されたのですか？この仕組みはスズランファーム様の鶏糞だけを燃焼させているのでしょうか、それとも地域の養鶏農家様の鶏糞も利用されているのでしょうか。

【熊本県酪農クラスター協議会さんに対する質問と意見です】

- 主な取り組みとして、自給飼料利用の拡大とありますが、それによりどれほどのコスト削減が見込まれているのでしょうか。
- これまでの導入件数が約500件と凄い導入実績ですが、成果目標達成状況の数値を見ると未達成となっており、これを達成させる効果的な手法は何だとお考えでしょうか。(未達の理由が、協議会だけではどうにもならない原因が多いようですが...)

【静岡県西部酪農経営継承協議会さんに対する質問と意見です】

- 伊東先生の考えておられる、日本の一次産業の生き残る道とはどんなものでしょうか？
弊社グループでも、これまで農業高校の生徒さんや、畜産課を卒業された学生さんが毎年のように入社して一緒に頑張ってくれていましたが、今では応募すらほとんどない状態です。そんな中でも、外国人実習生が元気に頑張ってくれていますが、円安の影響と長引く不況により、日本へのあこがれも減ってきていると聞きます。

【熊本県畜産振興クラスター協議会さんに対する質問と意見です】

- 年齢構成はどの一次産業でもこのような状況だと思います。そのような中で、10年後の熊本県畜産振興クラスター協議会さまはどのような状況になっているとお考えでしょうか。（静岡県西部酪農経営継承協議会さんのような承継に対する具体的な活動などはありますか）

【ご参加いただいているみなさまに質問です】

- 私たち飼料米生産活用協議会は令和6年度の畜産クラスター事業に生産コストの低減（15%）にて申請手続きを進めています。年々高騰するであろう飼料代をいかに減らすかが肝になると思いますが、穀物から飼料米に代替給餌しても限界があります。人件費を削減（機械化・省力化）する方法も同じく限界があります。
そこで、みなさまの協議会で新規申請する場合、どのような方法・目標設定なら目標達成できるとお考えでしょうか、是非ともご教授お願いします。

令和6年度畜産クラスター情報交換会に係る事前質問レポート

畜産クラスター情報交換会の Zoom ミーティング時の資料としますので、プレゼン動画を事前に視聴の上、1月22日(水)午前中までに事務局にメールで送信をお願いします。参加者、コメンテータに情報共有し、当日のディスカッションに活用します。

記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、誰に対する質問・意見なのかを明確にし、具体的に記述してください。記載枚数は問いません。

===== 以下、事前質問レポート =====

【北川養鶏場クラスター協議会さんに対する質問と意見です】

《意見》

- 畜産の規模拡大における一番の障壁は堆肥処理だと思います。その中で、地域生産者による発酵鶏糞の使用が目標値以上と言うことで、良質堆肥の生産がなされていると考えられます。規模拡大後の畜産物の販売増加のみでなく、堆肥処理等も見据えた素晴らしい取り組みだと思います。

《質問》

- 協議会を運営する上で、苦労した（苦労している）点がありましたか。また、苦労したことがあった場合どのように解決されましたか。
- クラスター事業に取り組むにあたり留意事項等、意識されていることはありますか。
- 堆肥の販売は元々していなかったという認識で良いですか。その場合、堆肥の販売先はどのように確保しましたか。

【飼料米生産活用協議会さんに対する質問と意見です】

《意見》

- 耕種農家↔養鶏農家という特定畜種のみではなく、和牛肥育農家も含めた耕畜連携の取り組みは多くはないと思いますので、その点が素晴らしいと思いました。

《質問》

- 協議会を運営する上で、苦労した（苦労している）点がありましたか。また、苦労したことがあった場合どのように解決されましたか。
- クラスター事業に取り組むにあたり留意事項等、意識されていることはありますか。
- クラスター事業を具体的にどのように活用されたかをお教えてください。
- 令和6年度は米不足（食用）となり米価も上昇しました。この情勢を見て飼料用米から主食用米へ生産を変えたい耕種農家も出てくると思いますが、この点について対策等、いかがお考えでしょうか。

【静岡県西部酪農経営継承協議会さんに対する質問と意見です】

《意見》

- 経営ができる人と、牧場（牛）管理ができる人を雇用できることは法人経営において一つの理想だと思います。

また、今後は人件費を取るか、機械投資・維持費を取るかという時代になると思いますが、給与を上げて人も雇えない状況になれば機械投資せざるを得なくなると思います。その場合、牧場経営において経営能力と飼養管理技術に加え、より専門的な機械の知識・技術が必要になってくると考えています。

《質問》

- 協議会を運営する上で、苦勞した（苦勞している）点はありましたか。また、苦勞したことがあった場合どのように解決されましたか。
- クラスター事業に取り組むにあたり留意事項等、意識されていることはありますか。
- 経営者・牧場長はどのようにして探し、引き抜かれましたか。
- 経営継続・国内酪農維持のためにはより良い経営者に経営継承することも大事だと考えています。しかし、現状クラスター事業を活用した農家は第三者継承等の場合、補助金返還となる可能性があります。この点についていかがお考えでしょうか。個人的には、同じ場所で酪農が同等規模以上で継続されるのであれば補助金返還はしなくても良いのではないかと考えています。

【熊本県畜産振興クラスター協議会さんに対する質問と意見です】

《意見》

- 県域かつ400件を超える多くの取組主体を抱える協議会の運営は大変と思います。同じ熊本県、県域協議会として今後も頑張ってください。

《質問》

- 協議会を運営する上で、苦勞した（苦勞している）点はありましたか。また、苦勞したことがあった場合どのように解決されましたか。
- クラスター事業に取り組むにあたり留意事項等、意識されていることはありますか。
- 多くの農家が事業に取り組まれていると思いますが、各農家の成果目標はどのように（何を）設定していますか。
- 令和7年度から販売額に係る成果目標の設定が変わりますが、取り組みの方針は定まっていますか。また、現状農家から要望はありそうですか。

令和5年度畜産クラスター情報交換会に係る事前質問レポート

畜産クラスター情報交換会の Zoom ミーティング時の資料としますので、プレゼン動画を事前に視聴の上、1月22日(水)午前中までに事務局にメールで送信をお願いします。参加者、コメンテータに情報共有し、当日のディスカッションに活用します。

記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、誰に対する質問・意見なのかを明確にし、具体的に記述してください。記載枚数は問いません。

===== 以下、事前質問レポート =====

【静岡県西部酪農経営継承協議会さんに対する質問と意見です】

- 酪農の第三者による経営継承モデルを作るための組織との事ですが、現在増頭中で完全ではないと思いますが、経営状況と成果目標についてはいかがでしょうか？

【北川養鶏経営クラスター協議会さんに対する質問と意見です】

- 鶏糞を利用として発電機の記載がありましたが、クラスター事業で導入されたものかどうか
- 中心的経営体はスズランファームのみでしょうか

【飼料米生産活用協議会さんに対する質問と意見です】

- 図に協議会に肥育農家さんもありますが、機械の導入等はどのようなものがありますでしょうか？
- 飼料藁の生産量はどのくらいでしょうか？

都道府県名： _____

勤務先名等：伊東ビジネスプランニング
氏名：伊東 祐孝

令和6年度畜産クラスター情報交換会に係る事前質問レポート

畜産クラスター情報交換会の Zoom ミーティング時の資料としますので、プレゼン動画を事前に視聴の上、1月22日(水)午前中までに事務局にメールで送信をお願いします。参加者、コメンテータに情報共有し、当日のディスカッションに活用します。

記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、誰に対する質問・意見なのかを明確にし、具体的に記述してください。記載枚数は問いません。

===== 以下、事前質問レポート =====

記載方法：【北川養鶏場クラスター協議会さんに対する質問と意見です】

- 産卵率と生存率が予定以上に効果が上がっています。その理由はどこにあると思いますか？
鶏卵はコロナ禍以降、価格が上がった代名詞のような存在ですが、今度も価格を維持するにはどうすれば良いと思いますか？

【飼料米生産活用協議会さんに対する質問と意見です】

- 米作農家では作業者の高齢化と後継者不足が問題になっています。我々にWCSを販売している農業生産法人も労働者の不足から生産を少なくすると連絡をしてくれています。畜産において飼料米やWCSは大切な飼料になっておりますが、現在は米農家から購入していますが、今後は自ら栽培する方向に進むべきでしょうか？

【熊本県酪農クラスター協議会さんに対する質問と意見です】

- 酪農の現状を評価された報告だと思います。九州地域では夏はもちろん、冬でも生乳の供給が需要を超えていない地域であります。
酪農が盛んではない地域だけに苦勞は多いと思いますが、今度も九州で酪農を維持するには、従来のような繁殖和牛と組み合わせる経営なのか、少ないから大きな牧場が必要なのか、どう思いますか？
夏場の影響で繁殖成績も悪化するばかりですが、どのような暑熱対策をすれば効果があると思いますか？

【熊本県畜産振興クラスター協議さんに対する質問と意見です】

- 畜産に限らず農家の後継者不足は深刻な状態です。更に利益率が悪いこと、初期投資額が大きいことから、以前のように少ない頭数で経営を始めて、次第に大きくする経営で途中で離脱してしまいます。

やはり、現在、畜産経営をしている方の後に事業継承する形しかないと思っていますが、正直言って畜産農家に「経営継承していく意識」を持った方が出てこないのも事実です。

我々も牧場で働いている方にどこかの牧場が売りに出たら、事業継承する方向でいますが、実際にそんな良い話は少ないのも事実です。

どうしたら経営継承できると思っていますか？

都道府県名： _____

勤務先名等：山崎農業経済研究所
氏名：山崎 政行

令和6年度畜産クラスター情報交換会に係る事前質問レポート

畜産クラスター情報交換会の Zoom ミーティング時の資料としますので、プレゼン動画を事前に視聴の上、1月22日(水)午前中までに事務局にメールで送信をお願いします。参加者、コメンテータに情報共有し、当日のディスカッションに活用します。

記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、誰に対する質問・意見なのかを明確にし、具体的に記述してください。記載枚数は問いません。

===== 以下、事前質問レポート =====

記載方法：【北川養鶏場クラスター協議会さんに対する質問と意見です】

《意見》

- いずれの目標をも上回って達成しており、素晴らしいと思います。

《質問》

- 取組の対象を「広域」にされたとのことですが、具体的にはどのような工夫、手法によって実施されたのでしょうか。
- 「産卵率」を主な指標とされています。率の改善と量の拡大が、協議会の目指す方向に一致しているものと思いますが、クラスター事業のいう「収益性の向上」というものを、協議会はどのようにイメージしているのでしょうか。例えば、付加価値額は出荷額から仕入額（中間投入）を引いた額を意味しますが（文脈によっていろいろな算出の仕方がありますが、「総人件費」＋「減価償却費」＋「経常利益」の合計額で表すことも多い）、養鶏経営から出荷するまでの「総人件費」＋「減価償却費」＋「経常利益」の合計額が増加している、ということがこのクラスターとしての「収益性の向上」を数値で示していると考えられないでしょうか。

【飼料米生産活用協議会さんに対する質問と意見です】

《意見》

- 鶏糞の活用などの耕畜連携は各地で行われていますが、個別経営単位で行われているのが一般的かと思います。発酵鶏糞と飼料米という結びつきを面的に大きく展開されていることに感激しています。各地に拡がればと願っています。

《質問》

- 鶏糞処理が養鶏経営にとって大きな課題であることは理解していますが、鶏糞を耕種農業で活用してもらうための実態把握に農業に参入するまでの企業はなかなかないと思います。きっかけと言いますか、トップダウンで始まったのかとか、経緯を教えてくださいませんか。
- 養鶏経営から肥育牛経営への対象拡大が進められました。「排泄物」「イネ」といった共通項があるとはいえ、容易ではないと思います。時間もかかったのではないかと思います。きっかけや具体的な流れを教えてくださいませんか。
- 今後について、SGS 導入も含めた新たな循環をお考えですが、具体的な進め方について、お話できる範囲で教えてくださいませんか。

【熊本県酪農クラスター協議会さんに対する質問と意見です】

《意見》

- クラスター事業のうち機械導入事業については、県内の酪農経営を一手に引き受けていると理解しました。沖縄県も同様の仕組みだと思いましたが、規模といい厚みといい、大変な量と質だと思います。敬服いたします。

《質問》

- 酪農経営の機械導入は県域一括、施設整備は各地のクラスター協議会が対応していると思います。具体的な分担の方法や工夫している点があれば教えてください。
- 平成28年から全酪連が参加していますが、何かきっかけがあったのでしょうか。
- 今後の課題には、酪農経営の規模拡大の希望と暑熱対策が取り上げられていますが、取り組む手順等について、現時点で考えられることがあれば、話せる範囲内で教えてくださいませんか。
- 目標達成に関して、飼料高騰を受けての給餌メニュー変更や暑熱対策など生産面に関する事項と労働力不足の人材に関する事項は、少し異質な印象です。人材に関する事項は後回しにされがちですが、深刻な課題であり、新規就農を受け身で待っているは大変なことになると予想されます。現時点で構想、具体的な方策があれば、お話いただける範囲内で教えてくださいませんか。

【静岡西部酪農経営継承協議会さんに対する質問と意見です】

《意見》

- 全国に先駆けて第三者継承の必要性を考え、「経営継承協議会」を設立されたことは、驚きでもあり、感服いたしています。

《質問》

- 第三者継承を実践するために、後継候補者の経営者教育が重要だと考えられますが、具体的な取組を教えてください。既に大規模牧場で経営者が非農家出身の農場長に交代されたと聞いていますが、その後続く動きはありますか。
- 今後の経営にとって、円滑な借入金償還の面からも利益率が重要とのことであり、そのとおりだと思います。一方で、長期借入金の償還財源は「減価償却費」と「利益」であると考えたとき、年間を通して算出するとその「鉄則」が守られるものの、月次でそれを守ることは難しく、資金繰りのための短期運転資金を借り入れて償還を円滑に行う必要があります。日銭が入る酪農経営では、手元現金で償還をおこなうことが比較的容易で、そのことが前述の「鉄則」が忘れがちにさせてしまうことも多いようです。損益の管理と併せて、資金繰りで工夫を行っていることがあれば、話せる範囲で教えていただけますでしょうか。
- 今後について、SGS 導入も含めた新たな循環をお考えですが、具体的な進め方について、お話できる範囲で教えてくださいませんか。

【熊本県畜産振興クラスター協議会さんに対する質問と意見です】

《意見》

- 酪農クラスター協議会でもそうですが、県内をまとめて協議会として取り組むことには苦労が多いと思います。それを実践されていることが素晴らしいと思います。

《質問》

- 繁殖経営中心の協議会だと理解していますが、肥育、一貫、酪農は県内全域ではなく阿蘇農協管内という理解で良いでしょうか。
- クラスター事業の効果を考える場合、中心経営体が440と多いこともあって、最大公約数的な数値を挙げられているように思います。それは一つの考え方だと納得できます。一方で、クラスター事業は「収益性の向上」というもの目指すとされています、協議会はどのようにイメージしているのでしょうか。例えば、付加価値額は出荷額から仕入額（中間投入）を引いた額を意味しますが（文脈によっていろいろな算出の仕方がありますが、「総人件費」＋「減価償却費」＋「経常利益」の合計額で表すことも多い）、事業を実施した経営の「総人件費」＋「減価償却費」＋「経常利益」を集計することによって、このクラスターとしての「収益性の向上」を数値で示していると考えられないでしょうか。お考えを聞かせていただければ幸いです。

都道府県名： _____

勤務先名等：
氏名：土肥 宏志

令和6年度畜産クラスター情報交換会に係る事前質問レポート

畜産クラスター情報交換会の Zoom ミーティング時の資料としますので、プレゼン動画を事前に視聴の上、1月22日(水)午前中までに事務局にメールで送信をお願いします。参加者、コメンテータに情報共有し、当日のディスカッションに活用します。

記入方法については、作文形式でも、箇条書き形式でも構いませんが、誰に対する質問・意見なのかを明確にし、具体的に記述してください。記載枚数は問いません。

===== 以下、事前質問レポート =====

【北川養鶏場クラスター協議会さんに対する質問と意見です】

- 中心的経営体はスズランファームさんでしょうか。
- クラスター事業でウインドレス鶏舎を導入されたのはいつ頃でしょうか。
- 目標達成に向けて解決すべき課題として産卵率の低下や、卵重量の増加が思うようにならないことを挙げていますが、R5年度の鶏卵生産量が伸びています。増量した要因を教えてください。
- 生存率が大幅に向上している要因として飼養環境の改善を挙げますが、ウインドレス鶏舎導入以外に改善、例えばHACCPの導入等がありますでしょうか。
- 発酵鶏フンの利用に関してクラスター事業で導入した施設・機器等がありましたら教えてください。
- 令和6(2024)年産以降、飼料用米の一般品種への交付額が引き下げとなりますが、本協議会の耕種農家さんで専用品種を栽培されている方はおりますでしょうか。

【飼料米生産活用協議会さんに対する質問と意見です】

- 発酵鶏フンの利用に関してクラスター事業で導入した施設・機器等がありましたら教えてください。
- 令和6(2024)年産以降、飼料用米の一般品種への交付額が引き下げとなりますが、本協議会の耕種農家さんで専用品種を栽培されている方はおりますでしょうか。
- 飼料用米を10%加えた配合飼料給餌により、鶏卵の生産性や品質の向上に影響がありましたら説明をお願いいたします。
- 飼料用米を保管する倉庫の建設及びソフトクレーンサイレージとして肥育農家に供給する新たな活動を加える計画をクラスター事業に組み込み申請をしますが、これらの活動や施設はどこが担うのでしょうか。

【熊本県酪農クラスター協議会さんに対する質問と意見です】

- 中心的経営体はどこでしょうか。
- 熊本県の酪農経営体全部を対象としているのでしょうか。熊本県には、酪農を対象としたクラスターが他にもあると思いますが、すみわけはどのようにされているのでしょうか。
- クラスターの機械導入実績は、飼料関係にかかわる機械の導入が多いですが、なぜでしょうか。また、家畜管理等他の目的での機械の導入はないのでしょうか。
- 成果目標の評価に当たっては、外的要因を排除するための価格補正を行うことになっていますが、その他にも成果目標の達成度の評価にあたって外的要因を排除するため必要な補正項目や手法についてお考えがありますでしょうか。
- 今後について、一部の農家からは牛舎増築・規模拡大の意向とありますが、この一部の農家の経営形態に共通する特徴などがありますでしょうか。

【静岡県西部酪農経営継承協議会さんに対する質問と意見です】

- 新しくできた牧場における人事管理と給与管理についてお伺いします。常勤で人を雇用したときには、雇用期間が長くなれば、雇用者の生活やモチベーションの維持のため、昇給・昇格が必要になり、透明性のある昇給・昇格のシステムが求められると思いますが、この牧場に昇給・昇格のシステムがありましたら教えてください。
- この新しい牧場では、いわゆるスマート畜産機器と言われるものとしてどのような機器が導入されているのでしょうか。

【熊本県畜産振興クラスター協議会さんに対する質問と意見です】

- 熊本県には、畜産クラスターが他にもあると思いますが、すみわけはどのようにされているのでしょうか。
- 肉用牛の繁殖農家を中心とした協議会ということで、繁殖農家 394 戸が参画していますが、熊本県全体の繁殖農家の内どのくらいの割合の繁殖農家が参画しているのでしょうか。
- 2 枚目のスライド目標は、熊本県全体の目標でしょうか。また達成状況を教えてください。
- 中心的経営体が 440 戸ということですが、畜産クラスター事業において各農家から上がってくる要望事項をどのように調整されているのでしょうか。

4 Web 情報交換会の様子



令和6年度
畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業
(全国推進事業)

令和6年度畜産クラスター情報交換会
令和7年1月24日(金)
13:30~17:00



5 情報交換会（議事録）

司会（中胡） 定刻となりましたので、令和6年度の畜産クラスター情報交換会を開催いたします。開催前に少しお話ししましたが、Zoomで入られている方、マイクはオフのままカメラはオンでお願いいたします。農水省畜産局企画課の村田班長と岡本さんはオフのままでも結構です。では、カメラオンということで進めていきたいと思います。

それでは開催にあたり中央畜産会の武田部長よりご挨拶申し上げます。

武田 皆さま、こんにちは。私は中央畜産会経営支援部支援調査の部長を務めております、武田でございます。まずもって、この1月、今年度も残すところ2月、3月ですが、皆さま大変お忙しい中、本日の情報交換会の開催におきまして、6名の皆さまにご出席いただいております。誠にありがとうございます。三重県、兵庫県、熊本県です。多くの皆さまはオンラインでのご参加になりますが、本日は兵庫の飼料米生産活用協議会さんの〇〇様は会場にお越しいただいているということで、皆さま本当にお忙しい中ありがとうございます。

また、この情報交換会の基になる事業である畜産クラスター全国推進事業の委員会の委員をお務めいただいている、伊東委員、山崎委員、土肥委員におかれては、クラスターコーディネーターの養成研修の講師をお引き受けいただきまして、引き続き本日の情報交換会のコメンテーターをお引き受けいただくことに感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

皆さまご存じのこととは思いますが、畜産クラスター全国推進事業は平成26年度から始まり、かれこれ11年目の事業となります。事業内容は幅広く畜産クラスターの取り組みの優良事例の調査やクラスターコーディネーター養成、その活動の支援、さらに各ブロック単位での普及活動や現地指導、そして本日開催する情報交換会の開催、さらに生産現場の経営指導、経営支援にご活用いただくため酪農肉用牛の経営状況を調査した全国実態調査等も幅広く実施してきています。

その中で本日の情報交換会は、畜産クラスターの全国的な普及推進のためにクラスター事業を活用して機械導入や施設整備を実施した、地域の畜産クラスター協議会関係者の皆さまを参集して開催しています。ここでは、これまでの活動内容を報告するとともに取り組み上の課題や解決策、今後の取り組みについて情報交換会を行い、各協議会の今後の活動の参考としていただくということで開催しています。

この情報交換会は平成28年から始まり9年目の開催で、ここ数年は参加者の皆さまから事前にプレゼンを行っていただき、その内容について事前に質問意見を交換する形で実施していますが、実は定員としては20名です。しかし先ほど申しましたとおり本日6名

の方々ということで、一つ参加者が課題になっています。ただ、言い換えれば、6名の皆さんと委員の皆さまとも非常に濃密に意見交換、情報交換ができるのではないかと思います。どうしても人数が多くなると、なかなか意見が出しにくいということがあるので、ぜひ本日は濃密な意見交換、情報交換をしていただければと考えています。

参加者の皆さまは各プレゼンのYouTube動画を1週間前から視聴いただき、事前に質問レポートを提出していただき本日の情報交換会に臨んでいると、事務局から報告を受けています。本日の情報交換会は参加者の皆さんが提出した事前質問レポートと、コメントーターの先生方からいただいた同様のレポートを基に質問・意見の確認を行った後に、受講生の皆さんとコメントーターの先生方、また参加者皆さま同士でディスカッション、意見交換を行うということで進めていくので、よろしくお願いします。

限られた時間の中でという制約はございますが、皆さんご存じのとおり、畜産クラスター事業は単に施設や機械の整備、導入が一番の目的にあるものではなく、本日まで参加の皆さんのお力を結集して地域の畜産の収益力を上げていく、地域の畜産の力を付けていくのが本来のクラスター事業の目的です。その観点に立ち、皆さまが抱えている日常の課題や、こういうふううまくやっているというお話等を交えながら、ぜひ実りある情報交換会にしていきたいと考えているので、よろしくお願いいたします。以上で開会の挨拶とさせていただきます。

司会 ありがとうございます。それでは早速、情報交換会に入っていきます。先ほど武田部長が挨拶の中でも述べたように、前半部分は事前に頂いた質問・意見の確認作業を行います。小一時間ぐらいかかるかと思っています。三重県の北川養鶏場クラスター協議会の〇〇さんから順番に建制順で下りていって、頂いている質問やご意見に一つずつ答えていただきます。〇〇さんのお答えが終わった段階で、各受講者やコメントーターの皆さんから、ここはどうなっているのかとか、そこの説明が分かりづらかったのもう一つお願いしますということで、一つの協議会ずつ確認作業を進めていきます。

これが1時間ぐらいかかるかなと思っていまして、15分ほど休憩をとります。その15分で前半部分で出た話題の中から、コメントーターの先生方とテーマを二つぐらいに絞って、それから全体討議をします。それから先ほど打ち合わせといいますが少し話をしましたが、今日の参加者だと飼料用米の話が一つ共通にいけるのではないかとということが出ましたが、いや、このテーマで一つみんなと話をしたいのだということがあれば、どんどん提案していただければと思います。

それで二つの討論を経て、予定では5時には終了するという流れです。毎年感じますが、結構、時間があるようでも本当に時間が足りなくなるので、効率よく進めていきたいと思

います。よろしくお願いいたします。

では、〇〇さん、たまたま三重県が一番上だったので、北川養鶏場クラスター協議会への皆さんからの質問や意見に対して、一つずつお答えいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

〇〇 もう今、書いているものをそのまま読んで、質問に対して答えを言っていく感じがいいですか。

司会 そうですね。例えば、どなたからこういうのを頂いたんですけど、ここはこうですよという感じで読み上げていただいて結構です。

〇〇 かしこまりました。

司会 皆さん、そのペーパーを見て情報共有をしているので大丈夫です。

〇〇 はい。まず伊東さんからいただいたのですが「産卵率と生存率が予定以上に効果が上がっています。その理由はどこにあると思いますか」。夏の猛暑でも夏の生剤という添加物を使用することで、まずは生存率が上がったところだと思います。また、夏から秋にかけて猛暑だと、あまり産卵率が上がってこないのですが、酪農飼料剤を入れることによって素早く戻って産卵率を向上することができました。

「鶏卵はコロナ禍以降、価格が上がった代名詞のような存在ですが、今度も価格を維持するにはどうすればいいと思いますか」。なかなか難しいとは思いますが、例えば鳥インフルエンザが増えれば必然的に価格も上昇しますが、それは一時的な価格になってくると思います。なので各養鶏場の卵の差別化に取り組む必要があるのではないかと見ています。

次は、熊本県畜産振興クラスター協議会の〇〇さんからです。「鶏糞を利用として発電機の記載がありましたが、クラスター事業で導入されましたか」。これは今後、導入して作っていくというところで、まだ現状、導入までには至っていません。

「中心的経営体はスズランファームのみでしょうか」。われわれは三重県養鶏協会だけではなく、鈴鹿市なら鈴鹿養鶏所協議会をつくっていて、要はスズランファームさんだけではなく鈴鹿市全体となって活動しています。土肥さんからも同じです。スズランファームは鈴鹿市全体として行っています。

「クラスター事業でウインドレス鶏舎を導入されたのはいつ頃でしょうか」。平成 29 年に鶏舎を設立しました。

「目標達成に向けて解決すべき課題として産卵率の低下や、卵重量の増加が思うようにならないことを挙げていますが、令和 5 年度の鶏卵生産量が伸びています。増量した要因を教えてください」。これも夏の生剤が大きく結果に結び付いたと思います。やはり秋冬に向けて戻りが早く負担が少なかったことで、生産量向上につながったのではないかと

考えています。

「存率が大幅に向上している要因として飼養環境の改善を挙げますが、ウインドレス鶏舎導入以外の改善、例えば HACCP の導入等がありますか」。HACCP は導入していませんが、環境ですね。温度、鶏施設、あとは生存率だけではなくて産卵率や強換をどれだけ数%まで落としていくのかをして、より産卵率の改善に向けています。

「発酵鶏糞の利用に関してクラスター事業で導入した施設・機器等がありますか」。こちらの導入はしていません。

「令和 6 年産以降、飼料用米の一般品種への交付額が引き下げとなりますが、本協議会の耕種農家さんで専用品種を栽培されている方はいらっしゃいますか」。これはいらっしゃいません。

「生存率の向上について、現在の状況が 95%と近年の猛暑を考えると驚くべき数値ですが、この数値は OUT 時での生存率の数値ということでしょうか」。こちらは OUT 時の生存率となります。こちらも鶏の負担は夏はあるのですが、夏の生剤やワクモの削減、これも匂いが寄らないようにするなどいろいろあるのですが、それを使うことによって鶏への負担を緩和して、生存率が上昇することができたと考えています。

「鶏卵生産量の増量として月 75 トンです。かなり厳しい状況だったと思いますが、同じ養鶏業として近年の飼料高騰に対する対策などあれば教えてください」。飼料高騰は大きな悩みになると思います。なので産卵率や生存率で卵重を乗せたり、格外率を下げていることが必要になってくるのではないかと思います。

「協議会の構図より鶏糞を小型発電機の燃料にされている」というところで、ここも現状は至っていないので、今後、導入し鈴鹿市の養鶏場の鶏糞を使用できるようにしていきたいと考えています。

〇〇さんから「発酵鶏糞などの流通先の確保について、堆肥化をしても流通先がないことで増頭羽が困難な例があるのですが、流通先の確保はどのように確保されたのでしょうか。広域に供給をされると運搬費や人員不足などの問題も出てくるかと思いますが、どのように対応されていますか」。これはスーパーや営農組合に拡販を行ったり、鶏糞を見せたのと、われわれは運輸の結び付きがありお願いすることができたので、より運搬費も削減できました。それから一つの大きな組合に案内を入れさせてもらったり、大きなスーパーにしっかり拡販することで、人員不足は関係なく、うまく流通することができたと考えています。

〇〇さんからです。「畜産の規模拡大における一番の障壁は堆肥処理だと思います。その中で、地域生産者による発酵鶏糞の使用が目標値以上ということで、良質堆肥の生産が

なされていると考えられます。規模拡大後の畜産物の販売増加のみでなく、堆肥処理等も見据えた素晴らしい取り組みだと思えます」。

その他の質問が「協議会を運営する上で、苦労した点はありませんか。また、苦労したことがあった場合どのように解決されましたか」。やはり堆肥処理というところですね。最初、鶏糞はにおいが臭いとか昔のイメージがありましたが、現物を見せたりブロードキャストでまけることだったり、そういうことを案内することによってスムーズに堆肥のはけ先を見つけることができたと考えています。

「クラスター事業に取り組むにあたり留意事項等、意識されていることはありますか」。目標達成できるように計画を立てることを意識しました。併存率だったり、そういうところを意識していきました。

「堆肥の販売はもともとしていなかったという認識でいいですか。その場合、堆肥の販売先はどのように確保しましたか」。これも先ほどお伝えさせていただきましたが、当初、堆肥はあまりいいイメージがなく嫌悪されていた部分がありました。それを実際に見てもらったり使用していただくことで、堆肥の広域流通につなげることができました。

山崎さんからです。質問で「取り組みの対象を『広域』にされたとのことですが、具体的にはどのような工夫を実施されましたか」。ここも良質な堆肥を使用して、スーパーや営農組合に案内をかけて、そこに使ってもらえることに至りました。

「『産卵率』を主な指標とされています。率の改善と量の拡大が協議会の目指す方向に一致しているものと思いますが、クラスター事業のいう『収益性の向上』というものを、協議会はどのようにイメージしているのでしょうか。例えば、付加価値額は出荷額から仕入額を引いた額を意味しますが、総人件費+減価償却費+経常利益の合計額で表すことも多い、出荷するまでの総人件費+減価償却費+経常利益の合計額が増加しているということが、このクラスターとしての『収益性の向上』を数値で示していると考えられないでしょうか」。ここも、おっしゃるとおりだと思っています。

〇〇さんから「鈴鹿養鶏拡大クラスター協議会の構図の中で、記載されている利用される鶏糞というのは、スズランファームの鶏糞のみなのでしょうか」。鈴鹿には養鶏場がたくさんあるので、そこに対してスズランファームさんだけでなく、いろいろな養鶏場の方が田んぼにはけさせていただいて利用しています。以上です。

司会 ありがとうございます。今、〇〇さんにご説明いただきましたが、ここはどうなんだろうとか、何か、もう少しここを教えてくださいということがあればお受けしたいと思いますがいかがでしょうか。どうぞ。

土肥 先ほど、飼料用米の専用品種を栽培されている方がいるということでしたが、割合

としてどのくらいになっているのでしょうか。それから、飼料用米（一般品種）に対する補助金の支援水準の段階的な引き下げや、食用米の値段が上がっていることから、だんだん耕種農家さんの飼料用米の栽培意欲が下がってきてしまっている面もあるのかなと思っています。生産現場がどうなっているのかお聞きしたいのでお願いします。

〇〇 難しいところですね。確かに、今、飼料米を使っている方は鈴鹿市の中でも少ないので、飼料米も使われるようにしていかなければいけないとは思いますが、拡大をどうするかは難しいです。

司会 今の点は後半部分でも議論することになるかと予想しているので、そこで皆さんからもいろいろとご意見をいただいてということによろしいですか。

他の方でどなたか、ここをもう少し聞きたいということがあれば、コメンテーターの先生方も〇〇さんも遠慮せずどうぞ。とりあえずよろしいですか。それでは前に進みます。

では、今日、現地の会場にいらしていただいている兵庫の飼料米生産活用協議会の〇〇さん。実は去年も情報交換会に出られています。原則として連続で出ることにはかなわないのですが、ぜひ、もう一回やりたいという強い要望と、Zoomで入られている兵庫県の〇〇さんからも強い要請があり、ここに出席いただいています。また去年と違った情報もあるということなので、そこら辺もプレゼンのときにいろいろお話しいただいたと思いますが、皆さんから頂いた質問に〇〇さんのような形でお答えいただければと思います。よろしくをお願いします。

〇〇 飼料米生産活用協議会の〇〇から発表させていただきます。最初に北川養鶏場クラスター協議会の〇〇様からの質問に対する回答をさせていただきます。「鶏糞の処理は生産者としては大きな悩みになると思います。その鶏糞を耕種農家さんに使用していただき飼料米を生産していくことはいい取り組みだと思いました。飼料米の需要が高まっておりますが、今後、飼料米の生産量をどのくらい拡大していくのでしょうか」。まず目標値は1000町歩を目指しています。現在、自社の補助は25町歩ですが、協力農家さん合わせて150町歩の飼料米を主に兵庫県で皆さんに生産いただいています。それを1000町歩までしようということは、あと6倍やろうということになっています。

その理由としては、また何で今年も来ているのということで、実は去年は飼料米生産活用協議会、別の養鶏場のことに対する発表会でしたが、今回うちのグループ会社である〇〇〇姫路夢前農園の養鶏場を新たにクラスター事業で建設したいという申請中です。その活動を先生方にも知っていただき指導を仰ぎたいということから、ぜひとも参加させていただきたいというのが今回の趣旨です。

それに関して今回の主目的が、飼料米の活用量を増やすことによって飼料コストダウン、

15%の削減を目指すことが今回の飼料米活用協議会の大きな目標なので、そうするためには現在 150 町歩で 1000 トン少しの飼料米が取れています。それだと年間 20%の飼料米を配合することになり、ちょうど、うちの養鶏場だけで全て消費してしまう数字になっています。それだと他の農家に対する飼料米を共有できず、これ以上、生産活用協議会が大きくならないので、クラスター事業を広げるためには、かなり多くの飼料米が必要になってきます。そのためには農家さんにご協力いただかなければいけないというところから、目標の 1000 町歩を掲げています。

続いて熊本県畜産振興クラスター協議会の〇〇様からのご質問に移ります。「図に協議会に肥育農家さんもありましたが、機械の導入等はどのようなものがありますでしょうか。飼料藁の生産量はどのくらいでしょうか」というご質問をいただいています。まず上の機械導入等とはということですが、現在、施設整備で申請をしています。それから協議会のポンチ絵のオレンジ色のところに、飼料藁と SGS と書いています。この SGS の機械導入も実は検討していますが、何しろ、去年、今年と一般の食用米が、どの県においても収穫が少なくなっており、一般の食用米の価格がかなり上がった状態になっています。そうすると農家さんとしては今まで飼料米を作っていたけど、「飼料米を作って補助金をもらうよりも、一般の食用米を作っているほうがかなりいいじゃないか」という声がいろいろなところから上がってきています。そうすると SGS の原料である飼料米を取るのが、かなり難しくなるのが現実です。

そうすると期待どおりの数字が取れるかどうか微妙になってきているので、今回、SGS 機械導入も踏まえたクラスター事業を考えていましたが、これに対して実際に今年やれるのかどうかを、今、県の方々と畜産協議会の方々と話をしながら、どのようにしようか検討中です。うまくいけばマルチコンパクターやプレスパンダーを導入することで、肥育農家さんに飼料米の SGS を享受できたらと言っていますが、まだ確定には至っていません。

飼料藁の生産量ですが、現在 2 年目です。ロールベラーなどを導入させていただきましたが畜産クラスターで導入したのではございません。別の農業事業の件で導入させていただきました。収穫量は 100 キロのロールベールで、今のところ、まだ 1000 本程度の年間収穫となっていますが、これも来年度以降、飼料米の生産農家さんからどれだけの稲藁が取れるのか。それに対して令和 7 年度の飼料米の補助がどれだけ確保できるかによって収穫高も変わってくるので、これは大きな問題になっています。

続きまして、同じく熊本県畜産振興クラスター協議会の〇〇様からのご質問です。「養鶏農家、肥育農家に兵庫県内農家等が今後参加予定とありますが、どのくらい参加予定があるのでしょうか」。実は令和 6 年 10 月以降、2 農家の養鶏所の参加がございます。飼

料米を使ったブランド卵を作ろうということで、2 農家さんにうちからの飼料米が供給されています。

肥育農家および繁殖農家に対する SGS ですが、飼料米の関係があるので、SGS の動向によって増えることは間違いありませんが、今年するのか来年するのか、本当にそれをすべきなのかを考えた上で増えていく予定になっています。

続いて「肥育農家の参加が予定されるとありますが、耕種農家の飼料糞生産量の拡大等はするのですか」。食用米の高騰により飼料米の生産が今後どれだけ増えていくのかがグレーなので、それを踏まえた上で、相変わらず飼料米の増産をするということが、農水省様、そこら辺の動きによって、こちらも変わってくるのではないかと考えています。今のところは未知数な数字になっています。

続いて熊本県酪農クラスター協議会の〇〇様からのご質問です。「協議会を運営する上で、苦勞した点はありませんか。また、苦勞したことがあった場合どのように解決されましたか」。昨年、来させていただいたときに、兵庫県の畜産協会も入れて協議会をしたらもっと幅が増えるのではないかとのご指導を、コーディネーターの皆さまからいただきました。それを基に今回の畜産協議会は兵庫県畜産協会様にも入っていただき活動しています。それによってスピードも大きくなりましたし、幅が増えています。それで肥育農家さん、繁殖農家さん、養鶏農家さんに対する声かけもしていただいているので、その部分においてはご指導を仰いだことにより昨年まで苦勞していた点は、かなり減っています。

「クラスター事業に取り組むにあたり留意事項等、意識されていることはありますか」やはりクラスター事業なので、うちの会社だけが儲かればいい、うちの会社だけ繁栄すればいいというのではなく、地域全体が繁栄しなければクラスター事業の本来の趣旨とは違うので、やはり地域にどう波及させていくのかを考えるべきだと思っています。飼料米が兵庫県内の養鶏農家さん 2 社が増えたことによって、そこら辺の活動も増えていきますし、2 社増えて現在 4 社でやっていますが 4 社から 6 社、6 社から 12 社となっていけば、それらの費用対効果も兵庫県としての大きな動きになってくるのではないかとということで、私たち協議会の事業の成功を早く皆さまのもとに数値として表していきたいと、今、意識して考えています。

「クラスター事業を具体的にどのように活用されたかをお教えてください」。現在、⑤にある日清丸紅さん、豊橋飼料さんなど配合飼料メーカーと組んで、SGS に関する具体的な研究までメーカーにさせていただいています。栄養成分の分析であったり、もう一つは販路ですね。このようなところに対するという声かけもメーカーさんを通じていただいているので、うちらが作った飼料米を SGS によって、いろいろな方面に販売していける

という協議会の本来の動き方ができています。私たちでできない力をメーカーさんは持っているので組んでよかったなと思っています。

続いて「令和6年度は米不足となり米価も上昇しました。この情勢を見て飼料用米から主食用米へ生産を変えたい耕種農家も出てくると思いますが、この点について対策等、いかがお考えでしょうか」。今、何度も申し上げているとおり、今季は完全に減少すると見込んでいます。その中で、どのように協議会が活動し続けるのか、私たちが言っている、5年後20%の配合飼料をどこまで達成できるのかを考えていかなければいけないと思っています。それが一番の課題だと今は思っております。

続いて伊東先生からのご質問です。「米作農家では作業者の高齢化と後継者不足が問題になっています。われわれにWCSを販売している農業生産法人も労働者の不足から生産を少なくすると連絡をしてくれています。畜産において飼料米やWCSは大切な飼料になっておりますが、現在は米農家から購入していますが、今後は自ら栽培する方向に進むべきでしょうか」。現在も生産活用協議会に入っている〇〇や、今回の養鶏場を作る〇〇姫路夢前農園の農業事業部も25町歩の飼料用米を作っています。ですが、やはり周りの農家さんは、どんどん高齢化が進んでいます。そして機械が壊れるたびに農業をやめようかという声が一農家一農家、上がってきています。その中で、そう言わないでということであったり、営農組合さんへの声かけによって、何とか現在の150町歩という数字を上げています。ですが、営農組合さん自身も高齢化が進んでおり、営農組合自身も閉鎖という声が出てきています。

伊東先生から、今後、一次産業どうするのかに対するの発表もありましたが、私たちも同じ考えです。このまま進めば本当に農業の土台自身が崩れてきてしまうのではないかということは同じように心配しています。

続いて山崎先生からのご質問です。意見「鶏糞の活用などの耕畜連携は各地で行われていますが、個別経営単位で行われているのが一般的かと思います。発酵鶏糞と飼料米という結び付きを面的に大きく展開されていることに感激しています。各地に広がればと願っています」。ありがとうございます。

その上で質問です。「鶏糞処理が養鶏経営にとって大きな課題であることは理解していますが、鶏糞を耕種農業で活用してもらうための実態把握に農業に参入するまでの企業はなかなかないと思います。きっかけと言いますか、トップダウンで始まったのかとか、経緯を教えてくださいませんか」。これは間違いなくトップダウンですが、その目的は、私たちは養鶏業ですから必ず臭いがあります。鶏糞を出してしまいます。それをそのまま終わらせるのではなく、なるべく臭いを抑えて無臭の鶏糞を作りたい。そして周り

の皆さまに何とか恩返しをしたいというところから始まっています。ですから、そうすることにより私たちが耕作放棄田を借り上げ稲を植えて、ひょっとしたら耕作放棄地になってしまうところを私たちの力で緑を生かして、何とか村を救おうという願いから、何とかこれをやるんだというところから農業事業部を進めました。それが一番のメインになっています。

その中で「養鶏経営から肥育牛経営への対象拡大が進められました。『排泄物』『イネ』といった共通項があるとはいえ、容易ではないと思います。時間もかかったのではないかと思います。きっかけや具体的な流れを教えてくださいませんか」。もともと〇〇商店は畜産用飼料の販売会社で、そこからなので直接的な関わりは最初は牛や鶏の農家さんでした。ですから農家さんとの結び付きは、かなり強いものがあります。現在 109 年目なので、かなり多くの農家さんとのつながりから私たちが逆に教えていただきながら、養鶏とは何なのか、養牛とは何なのかというところで、私たちがお役に立てることは何かということで、それでは稲藁を作ってほしい、飼料米を作ってほしい。または養鶏を黒字にできる方法はないのかなど、いろいろなご質問に対して、じゃあ私たちはやってみないと分かりませんよねというところからやったのが、実際のきっかけです。それを何とか黒字化して、クラスター事業においても成功させることが私たちの目的であると思っています。

「今後について、SGS 導入も含めた新たな循環をお考えですが、具体的な進め方について、お話できる範囲で教えていただけますでしょうか」。現在、飼料メーカーと組みながら SGS の研究をしています。それがすぐに実行できるかどうかは、今後の飼料米の動向が大きなメインの考えになると思うので、何とか、その中でメーカー主導ではありますが、私たちも力を合わせてメーカーさんと一緒に、どのようにすれば SGS がより広がっていくのか、私たち兵庫県だけではなく、より多くの地域で飼料米はすごいということになれば変わってくるのではないかとということで、私たちが何とか成功させないと、言ったところでということにならないようなことまで、私たちは現在、考えています。

最後に土肥先生からです。「発酵鶏糞の利用に関してクラスター事業で導入した施設・機器等がありましたら教えてください」。発酵鶏糞の利用に関してクラスターではないのですが、ものづくり補助金というものがありました。ペレットマシンはチカンリース(畜産環境整備リース) を利用させていただきました。発酵鶏糞をクラスター事業でしようとする一番問題になるのは費用対効果ですが、鶏糞はものすごく安価で、それに関して待避所を作るのはとてつもなく金額がかかります。それに対して、どれだけの費用対効果が出るのかというと実際に出ない。出ないとクラスターとしては認められないのが補助金の事実だと思います。発酵鶏糞については畜産クラスターは使わず、その他の事業で効率化

というところから、これらの設備を導入しています。

続いて「令和6年産以降、飼料用米の一般品種への交付額が引き下げとなりますが、本協議会の耕種農家さんで専用品種を栽培されている方はおりますでしょうか」。これは2024年に下がると分かっていたので、私たち農業事業部は事前に耕種農家様に対して専用品種を栽培するようにお願いしていました。ですから全ての農家さんに一般品種ではなく専用品種を栽培していただいたので、現在、影響なく収穫できています。交付金は減らされていません。

3番、「飼料用米を10%加えた配合飼料給餌により、鶏卵の生産性や品質の向上に影響がありましたら説明をお願いいたします」。これはメーカーさんに確認いただきました。現在10%の配合をしています。今後、目標として20%にしますが、20%でも色味だけのことなので、それに関してはパプリカを入れるなりして色を変えることで、逆に言えば、栄養面においては飼料米は上がっていたと言っているのです。遜色ないものが出来上がると思っています。30%になると、さすがに変わってくるのではないかと思います。飼料用米が30%ともなると、新しくしたら1500トンの飼料米が必要になってくるので、そこまで実際に取れるのかということになります。ですから20%転化するのが第1の目標になっており、20%なら大丈夫です。

最後に4番です。「飼料用米を保管する倉庫の建設およびソフトグレインサイレージとして肥育農家に供給する新たな活動を加える計画をクラスター事業に組み込み申請をすると思いますが、これらの活動や施設はどこが担うのでしょうか」。うちには〇〇〇姫路夢前農園農業事業部がありまして、SGSならびに飼料稲、もちろん飼料米を作っているのです。そこがメインになってやるつもりです。あとは地域の耕種農家様にも手伝っていただき、営農組合様にも手を挙げていただいています。人手がいる作業が多いので、協力しながらクラスターの動きとして活動していきたいと考えています。私からの発表は以上です。ありがとうございます。

司会 ありがとうございます。それでは同じように、今のご説明に対して何か追加があれば、どなたからでもご発言いただきたいのですがどうでしょうか。

土肥 飼料用米について研究もされているというご発言があったと思いますが、それはソフトグレインサイレージの品質に関する研究なのか、それとも実際に肥育牛に給与する研究までもやられているのでしょうか。

〇〇 もちろん給与までさせていただいています。その中で実際に枝になったときにどれくらいの影響があるのかまで、私たちだけではできませんがメーカーさんなので、協力いただいている農家さんと一緒に組んでやっています。

山崎 丁寧なご説明ありがとうございました。私への質問の前に、今の土肥先生への回答の中で気になった点が、クラスター事業を申請しようとしたときに費用対効果が問題になって事業から外しているというお話がありました。これだけ地域に貢献している、僕は非常に重みのある事業だと思いました。赤字になってもやるというところの確認というのでしょうか、ご意見と、クラスター事業の費用対効果に関して、この事業はこれだけ大切だからという効力というのでしょうか。そこでお考えになっていることがあればご説明いただければと思います。よろしく申し上げます。

〇〇 私たちは協議会ではありますが、言っても企業の集まりなので赤字は悪だと思っています。企業である限り黒字を出してこそだと思うので、もちろん事業の中でも費用対効果があるものでプラスを出すことは、まず念頭にあります。

鶏糞においては始まる前に伊東先生とも話していましたが、鶏糞が養鶏場としては一番問題になります。その中で鶏糞を販売できなければ産廃として処分しなければいけない。そうすると処分料が発生する。それを実際に有効活用できて、売れないとしてもゼロではけたとしたら、その費用は逆に言えば費用対効果になるのではないかという考えのもとで、私たちはそれを一つの事業として考えています。ですからマイナスではなく、それが他に生かせるのであればプラスではないかという感覚でやらせていただいています。

伊東 名前が出たもので、今、しゃべっていない方もたくさんいるのですが。費用対効果の表ですが、あれは結局、ゲームのようになっています。たぶん皆さんの中でクラスター事業をやったときに、県の方から費用対効果がこれぐらいでない駄目ですという話になってきたときに、費用対効果の費用が事業費に対して耐用年数を決めて、耐用年数で割って1年のとなるではないですか。そうすると極端なことを言えば、税務署のあれでいくと機械は7年が耐用年数だけど、7年より短くすることはできないまでも7年を10年にすれば1年増える。なおかつ費用対効果がだんだん上がるんです。そういうゲーム的なところがすごく目立つようになってきていて、私は、この仕事をしていると費用対効果の表が作れないんですとか。

もっと言うと、農水省に前も言ったことがあるのですが、もう効果の項目が時代に合っていない。例えば養鶏であれば日本人であろうと外国人であろうと、人を雇えば人を雇った分の地域に対する効果は、どう評価してくれるのかということが載っていない。言っただけは悪いけど、金の卵を産んでくれるか、うんこをしない鶏を作ってくれなければ困ってしまうわけだけど、両方ともそういうものはない以上、産廃業者に処理代で年間1億円を払わなければいけなかったのが、とにもかくにも金にはならんが電気代だけ持って何とか消えるのだから、これを評価してよというときに売っていないから駄目だというでしょう。

そうすると費用対効果の表自体が既に時代に合っていないんです。

それをよく聞かれるけど、この間も村田班長と話をしたときもありましたが、本当は費用対効果の表を誰かが今の時代に合うように作り直さなければいけません、「それは必要だと思うんですけどね」ということで終わっているのが現状です。ああでもないこうでもないというのであれば、いずれ費用対効果の表を今の時代に合うように作り直さないとおかしいと思います。はっきり言って、あれは時代に合っていないです。

山崎 貴重なお話をありがとうございます。先ほど僕は三重県鈴鹿にもご質問して、今回、お二方だけに質問を入れましたが、付加価値額ですね。〇〇商店さんがお取引している自社の養鶏場も含めてですが、決算書を頂くことが可能かどうか。あるいは、その中の付加価値額だけ自分たちで計算して提示してほしいとか、決算書を預かって計算をするとか、そういう手法は可能だと思われませんか。今の人件費みたいなお話が入って、非常に地域に貢献していることは間違いない。

GDP もそうですが、仕入れから出荷までの間に加わった価値です。国のレベルでもマクロ経済でもやりますが、地域を一つのマクロと見て、クラスター事業、ブドウの房の地帯で付加価値がこれだけ増えたということを出していくことは、今、〇〇商店さんが狙ってやっていることに他ならないような気がしています。

そこには利益も入っているし、総人件費、そこに投下した減価償却費も入れる、加算の文脈から見ると非常に評価できるような指標になるのではないかと思います、ご意見お聞かせいただけますか。

〇〇 それこそ、どれほどの農家さんにご協力いただけるかはグレーなところがありますし、あくまで企業としては数字が表に出ていいものかどうか分かりませんが、うちとしては別に隠すことはありません。

実際に今、完全に養鶏業は二分化していて、儲かるところはすごく儲かっていますが、駄目なところは全然利益が出ていない状況が続いています。この飼料高はもちろんですし人件費高が、かなり影響しています。その中で、どのように利益を出していくかは課題です。大きなところでいうと、完全に芽ができているところは十分出てきていますし、ほとんど半自動化になっていますから、そこはプラスになっていきます。だから結局、淘汰されてしまうと言っておかしいですが、そういう企業が出てきてしまうのではないかと危惧しています。

そうすると余計に人件費なり他の経費なりも上がってきてしまっているのだろうと。地域全体でどれほどの養鶏農家さんに協力してもらって、この数字だというのがあるのかもしれない、一農家一農家の色が全然違うのが事実だと思います。

土肥 今、農水の補助事業に応募するときに、みどりの食料システム戦略にどのぐらい貢献しているかというチェックリストを提出することになっています。みどりの食料システム戦略は、環境に配慮し農業の持続可能性を高めるために策定された方針です。補助事業の採択に当たっては、みどりの食料システム戦略を考慮しているか評価するという話になっています。ゆくゆくは採択時だけではなくて、採択された補助事業の終了時評価にも反映するような方向に行くのではないかなと私自身は考えています。

司会 他の方はどうでしょうか。今の議論を聞いて、そこでもよろしいのですけれども。岡本さん、何かお願いします。

岡本 本日はありがとうございます。申し訳ありません。別件があり離れることができなかったのがオンラインで参加させていただいています。伊東先生からも厳しいお言葉、費用対効果が合っていないのではないかというご意見いただきました。具体的にこういうものがあつたらいい等ご意見いただき、議論ができたらいいと思っておりますので、お願いします。

山崎先生もおっしゃっていたように、高付加価値化も一つ重要な点だと思っているので、そういったところも皆さん検討していただければと思います。

また、土肥先生からあつた、みどりのクロスコンプライアンスの件ですが、これも令和9年から本格実施になります。今もポイント加算という形では対応しているので、皆さん引き続きご協力いただければと思っています。

〇〇さんに質問させていただきたいのですが、実際、鶏糞堆肥を販売されているのか、無償で提供されているのかということと、耕種農家さんのところに自分たちでまきに行っているのか、それとも取りに来てもらっているのでしょうか。

それから費用対効果というところで、飼料米を使う割合を10%から20%にするということですが、コスト的にはどれくらい変わってくるのかを教えていただければと思います。

〇〇 岡本さん、ありがとうございます。まず、鶏糞が無償かどうかですが、無償ではありませんが15キロ20円、30円の世界です。それは袋代で消えてしまうのが事実なので、実質は無料で出させていただいています。無償ですが先ほど申し上げたとおり産廃にはならないので、逆に言えば、その分は利益が出ているのではないかという感覚です。たぶん他の養鶏農家さんも、養牛も一緒だと思います。そのような感じで出せたらと思っています。

2番目の取りに来ていただいているのか、まいているのかに関しては両方ございます。大きな補助、特に今回、うちはクラスター事業があるので、ご協力農家様に関しては、実

は昨年度より協力いただいている牛糞および鶏糞の両方をまきに行かせてもらっています。牛糞で土作りをして鶏糞で肥料という感じで飼料用米を育てていただいています。それで一つのブランドになるのかなと思っているので、クラスターでの圃場は、そのような活動を私たちでさせていただいています。

続いて10%から20%に関してコスト面ではどれだけなのかということですが、もちろん今回、畜産クラスターと申請している15%のコスト削減の中で、大きな一つが飼料用米の転嫁です。現在、試算していますが、何せ飼料がかなり高騰しているのです、そのうちの10%、20%を飼料用米に変えることにより、私たちはかなりプラスになります。だいたいキロ当たり23.16円の削減を目指しています。それは実際の数字なので実際に削減されています。

だけど問題は、それを取れるかどうかにかかっています。飼料用米を一般の食用米に変えたいという農家さんの声が今年は、かなり多かったです。こんなに高いのに何で私はこんな続けないといけないのか。やっぱり複数年契約させていただいて、それで何だかなというところがあったので、こちらとしても高く買い取りたいというのがあって、そうすれば23円の数字が崩れてきてしまって、15%削減できていないではないかという答えが、5年後にはわあわあとなってしまうので、それも踏まえてです。

なので、私たちのやろうとしていることや考えは、それこそ県の方、近畿農政局の方、農水の方には分かっていると思いますが、そこで問題になってくるのは、費用対効果の数字や一つ一つの提出書類の数字ばかりに目が行ってしまい、やろうとしている畜産、養鶏を守るんだということに目が行かず、数字に行ってしまうから、それなら採択しようか、しないでおこうかと二極化されています。

そうではなくて地域のためにやっていることには国の力を貸していただいて、何とか盛り上げて、どんどん一次産業が衰退している中でやろうとしている事業に対して手を差し伸べる活動をしていただけたらと思います。私たちとしても、きっと他の今回来ていただいている熊本県さんや〇〇さんのところも、この活動が成功すれば、そういう活動を俺らはやってよかったなとなると思います。ぜひとも、そこら辺は岡本さん、お願いします。

岡本 ありがとうございます。先ほどの伊東先生の目標にも通ずる話だと思うので、また皆さんと意見交換をして、変えられるところは変えていきたいと思います。また引き続きよろしくお願いいたします。

司会 今の議論に、何か続いてありますか。北川養鶏場クラスター協議会の〇〇さんは同じ養鶏の協議会として、今のやりとりを、どう受け止められたかコメントいただければと思います。よろしいでしょうか。

〇〇 われわれも養鶏は、どんどん鶏糞や飼料米を使ってもらっていかないと駄目なので、僕はまだまだできていないではないですが、もっと飼料米を使っていただけるように鶏糞の格下げを考えていかなければならないと思っています。

司会 ありがとうございます。他になければ先に進みたいと思いますがよろしいですか。

それでは飼料米生産活動協議会はここまでとして、次は熊本県畜産振興クラスター協議会の〇〇さんをお願いすることになるのでしょうか。

〇〇 本日、うちの〇〇が急用で出ていて、私1人での対応となるので、ご了承をお願いいたします。

まず北川養鶏場クラスター協議会の〇〇様のご質問からお答えさせていただきます。「差し支えなければ、担い手の育成についてお聞きしたいことがあります。例えば、どういった担い手の育成方法をされているのか教えていただけますでしょうか」。うちでは年に合計3回の研修会、講習会を開いて、畜産管理向上のための技術指導を行っています。それから各種農家さんなど相談されてきた方には、各種補助事業の紹介も行っています。

続いて飼料米生産活用協議会の〇〇様のご質問です。「年齢構成はどの一次産業でもこのような状況だと思います。そのような中で、10年後の熊本県畜産振興クラスター協議会様はどのような状況になっているとお考えでしょうか。(静岡県西部酪農経営継承協議会さんのような承継に対する具体的な活動などはありますでしょうか)」。実際、10年後はかなり厳しい状況になっていると思います。現在、2300名と書いていましたが、10年ほどのデータを基にして計算したら、恐らく10年後は、だいたい38%減となり、現在の2300名から約900名減の1500名ほどになっているという予想になっています。

これは何の対策もなくやった場合で、承継については非常に厳しい状況があります。今、後継者がおられる農家さんもありますが、いないところはやめていく状況です。それから新規の農家さんも何人かは入ってきていますが、全然、数が足りていない状況です。現在の飼料価格、子牛の価格等を見ても、やはり厳しい状況かとは思っています。

続いて兵庫の〇〇様のご質問です。「肉用牛の繁殖農家戸数は減少傾向ながら、繁殖雌牛頭数は非常に順調に増頭をされております。一戸当たりの飼養頭数が多い大規模な農家さんが増えておられるのだと思いますが、大規模な農家さんは個人経営でなく企業などでしょうか」。こちらは個人の大規模農家さんもおられて、クラスター事業でミルクロボットを導入されたり、分娩の監視装置を導入されている方もいらっしゃいます。個人ではなく繁殖をされている企業さんもおりまして、こちらもかなり大規模な農家さんで繁殖も順調にされています。

「また新規就農者を確保に取り組んでおられますが、新規就農者の開業する施設などは

協議会でサポートしておられるのでしょうか」。一応、新規農家さんはクラスター事業に参加する優先順位を上げていて一番トップになっています。機械化導入がメインで、なかなか施設のサポートはできていません。

続いて土肥様です。「熊本県には、畜産クラスターが他にもあると思いますが、すみわけはどのようにされているのでしょうか」。熊本県には、今回、来られている熊本県酪連さんや経済連さんなどいろいろありますが、その中で、この組合員さんをメインでやっています。従って、繁殖農家数は440となっていますが、これも一部となっています。

「肉用牛の繁殖農家を中心とした協議会ということで、繁殖農家394戸が参画していますが、熊本県全体の繁殖農家のうち、どのくらいの割合の繁殖農家が参画しているのでしょうか」。熊本県内の令和5年度のデータを調べると、全体で2050戸が繁殖農家さんで、うち394戸がうちですが、全体の17%ぐらいがうちの対象としている繁殖農家さんになっています。

続いて「2枚目のスライド目標は、熊本県全体の目標でしょうか。また達成状況を教えてください」。今、熊本県全体の目標というよりも協議会の目標となっています。成果目標は、現在のところ70%ぐらいの達成率で推移しています。

続いて、熊本県酪農クラスター協議会様です。質問で「協議会を運営する上で、苦労した（苦労している）点はありましたか。また、苦労したことがあった場合どのように解決されましたか」。協議会運営面では、やはり突発的な問題、やめるとか機械等の問題が発生したなど、いろいろありますが、協議会や畜産協会、県とも相談して解決しています。

「クラスター事業に取り組むにあたり留意事項等、意識されていることはありますか」。書類が煩雑になっているので、特に一番注意しているのは書類のチェックを意識してチェックしています。それから機械もよくトラブルがあるので、そちらも注意しています。

「多くの農家が事業に取り組まれていると思いますが、各農家の成果目標はどのように（何を）設定していますか」。熊本県畜産振興クラスター協議会の成果目標としては、所得と販売額の向上の二つがメインになっております。以前は飼料の自給率向上などもございましたが、今は先ほど述べた二つがメインとなっています。

「令和7年度から販売額に係る成果目標の設定が変わりますが、取り組みの方針は定まっていますか。また、現状農家から要望はありそうですか」。まず要望は農家さんに問い合わせをしているようです。あとは販売額の目標設定が変わるということですが、販売額は確か1頭当たりの平均になるということですかね。そちらは今のところ変わってしまったものはしょうがないということでやっていくしかないのですが、いろいろ手続きや業務が煩雑になるかと思いますが、定まっていないので状況を見てやっていくしかないと思っています。

ます。

続いて伊東様のご質問です。「畜産に限らず農家の後継者不足は深刻な状態です。さらに利益率が悪いこと、初期投資額が大きいことから、以前のように少ない頭数で経営を始めて、次第に大きくする経営では途中で離脱してしまいます。やはり、現在、畜産経営をしている方の後に事業継承する形しかないと思っていますが、正直言って畜産農家に『経営継承していく意識』を持った方が出てこないのも事実です。われわれも牧場で働いている方にどこかの牧場が売りに出たら事業継承する方向でいますが、実際にそんな良い話は少ないのも事実です。どうしたら経営継承できると思っていますか」。畜産をやめたいとご相談を受けて、後で企業が牧場を買いたいという方がおられるというお話は何回かありました。あとは経営が厳しくなって、企業の傘下に入りやられている方もいらっしゃいます。非常に現在の状況だと、飼料高騰もありますし事業継承する方々がいないのも現実です。

どのようにしたらというと、やはり、これは難しいですね。実際のところ、うちの協議会の農家さんから、こうしたらいいだろうかという相談もありまして、相談されてどうするかというのが一番だとは思いますが、現在のところ、どうしたらいいかは非常に難しいと思っています。

続いて、山崎様のご質問です。「繁殖経営中心の協議会だと理解していますが、肥育、一貫、酪農は県内全域ではなく阿蘇農協管内という理解でよいでしょうか」。一応、熊本県畜産農協さんと阿蘇農協さんの二つになっていますが、熊本県畜産農協さんは一応、県内全域となっています。

「クラスター事業の効果を考える場合、中心経営体が440と多いこともあって、最大公約数的な数値を挙げられているように思います。それは一つの考え方だと納得できます。一方で、クラスター事業は『収益性の向上』というものを目指すとされています、協議会はどのようにイメージしているのでしょうか。例えば、付加価値額は出荷額から仕入額（中間投入）を引いた額を意味しますが（文脈によっていろいろな算出の仕方がありますが、総人件費＋減価償却費＋経常利益の合計額で表すことも多い）、事業を実施した経営の総人件費＋減価償却費＋経常利益を集計することによって、このクラスターとしての『収益性の向上』を数値で示していると考えられないでしょうか。お考えを聞かせていただければ幸いです」。うちのクラスター協議会は収益性の向上、一番は販売額の向上、もしくは所得の向上がメインで成果報告を上げさせていただいています。

収益性の向上のイメージは、うちは繁殖農家が多いこともあり繁殖雌牛の増頭による販売子牛の増頭による販売額の増加です。それから所得の立て方については、自給飼料の生

産による飼料費の低減によって利益を出し、利益性を上げるという形になっています。あとは管理関係、先ほど言った繁殖の分娩管理を用いて農家さんに安定した分娩をしていただいて、繁殖頭数の増加にも貢献していると思っています。拙いですが、これで終わらせていただきます。

司会 ありがとうございます。同じように確認に入りたいと思いますが、どなたからでも結構です。山崎先生、どうぞ。

山崎 詳しい説明、ありがとうございます。私は熊本県の経営継承支援センターのお手伝いが5年目に入っていて、来週も天草に行きます。熊本県は、後継者がいないから有形資産を譲りたい譲りたいという人のデータをホームページに上げているのですが、先ほど組合にもご相談があるというお話でしたが、繁殖農家の方はやめようと思ったら、まず誰のところに相談していますか。いろいろな組織があるのかもしれないんですけど。

〇〇 まず相談されるとするなら、ポンチ絵にありましたが、熊本県畜産農協さん、阿蘇農協さんに相談が行くと思います。あとは突発的にやっている方が亡くなったりする場合がありますが、もう体がきつくなったという場合は、だいたい、そちらに連絡が行くと思います。

山崎 畜産農協さん、阿蘇農協さん、この二つの農協の組合員ということ。

〇〇 そうですね。組合員です。

山崎 つまり、そこを通して餌を購入しているとか、そこを通して出荷している取引先ということですかね。

〇〇 そうですね。

司会 他にどなたかいらっしゃいますか。

伊東 自分も経営継承ということでクラスター協議会をつくって、後で自分の回答にしますが、実際になかなか経営継承ができないんです。理由の一つは、この餌高なので、あまり儲かっている畜産農家は少ないのですが、儲かっている人は儲かっているから続ける。できたら息子が娘の旦那が誰かやってくれないかなという話になっている。儲かっている人は、変な話だけど、やめるにやめられなくて借金が少しずつ増えているけど、このまま続けているというのが現状です。俗に居抜きのスナックの経営ではないですが、ママが変わるような、なかなかそういうことは現実問題としてできないですよ。

ただ、今、山崎さんがおっしゃっているように、畜産の盛んな熊本県で、ここをやりませんかといったときに最初に問題になるのは、お金だと思います。要は繁殖和牛をそのまま引き継ぐにしても、ただでくれるわけではないから買わなければいけないだろうし、餌代にしても、お金の支援はクラスター協議会ではなくて、熊本県で融資のあっせんなどは

何かありますか。今回の質問とは違うかもしれませんが。

〇〇 組合では確かなかったと思いますが、その辺りがどうなっているか把握はしていません。

伊東 そうだと思います。そうすると結局、最後やりたいんだけど金がないと、みんな、やめていくんだろうなと思います。実際にやるとなったら100万、200万のお金ではないんですね。そうすると、元公庫のOBのあなたに聞きますが、公庫もはっきり言って貸さないでしょう。

山崎 今のお話に答える形で。まるっきりの新規就農者には公庫も特にリスクが高いところに対しての融資には、そのための資金制度もあって積極的になってきていたはずですが、ここへ来て経営環境がだいぶ変わってきたということか、公庫全体としても新規就農支援に限らず厳しいことは各地で聞いています。

すみません、融資とかけ離れてしましますが、例えば北海道だと公社のリース事業といって、公社が1回買い取って5年間リースをして5年後に買い取ってもらう。つまり、やめる人の農場を公社が買い取って新しい人に売り渡すという事業があります。

公社がやっていると予算が限られていて、なかなか全道に回ってこないということで、浜中という酪農地帯の農協は、それを自分たちでやっています。もちろん、いきなり5年のリースといっても右も左も分からない人はできないから研修牧場で研修をしてからです。この仕組みは現在の保有合理化事業で全国でもできないことはないはずですが、やっぱり一時保有のようなものは、みんなやらないということで、買い取りに踏み出していないのが全国の実情のような気がしています。

先ほど伊東コンサルからお話のあった、熊本でお金を国が付ければ、意欲のある新規就農者を地域でトレーニングした上で5年間のリースなら、結局、リースした後に買い取ってもらうから、考え方として、お金は基本的には毀損しない。それをリスクが高いということで1回出すかというできないのが実態ですが、県レベルではなくて、もう少し1段階高いレベルでお金が出てきたら熊本県でもやりそうですか。無責任な質問で恐縮ですが、個人的なご意見でもいいからお聞かせいただければと思います。

〇〇 個人的に言わせてもらうと、やりたいという農家さんはもしかしたらいるかもしれませんが、言い方が悪いのですが、だいたい生涯現役でやられている方も多くて、いきなり亡くなられて、そのままやめてしまう農家さんもおられますし、後継者がいるという話で安心されている農家さんもいらっしゃいます。やりたいという農家さんは探せばいると思います。

司会 他はいかがですか。熱心な意見交換ができて、開始から、もう1時間半です。ただ、

今、伊東先生が横で「休憩するか？」とおっしゃいましたが、熊本つながりで熊本のお話を聞いて休憩に入ったかどうかと思っています。〇〇さん、よろしいですか。

〇〇 大丈夫です。

司会 では、よろしくお願いします。

〇〇 よろしく申し上げます。まず、北川養鶏場クラスター協議会の〇〇さんから来ている質問です。「今年は猛暑で乳量の低下があったと思いますが、対策等あれば教えていただけると幸いです」。まず2点ありまして、環境面では屋根への散水、送風装置の設置、細霧装置の利用、またソーカーシステムといって牛体に直接水をかけるという方法があります。また、飼料管理の面では重曹や酸化マグネシウムなどの添加剤の血管拡張作用等を使って、暑熱対策をするという方法があります。

続いて、兵庫県の〇〇さんからの質問です。「成果目標の目標達成に困難が伴う要因がさまざまありますが、協議会で各農家さんの経営状況、課題、困りごと、目標が達成できない要因の分析などサポートする仕組みづくりなどされておられるでしょうか。協議会で、各農家の状況把握や情報共有、共助の仕組みづくりなどされておられるようでしたら教えてください」。協議会においての目標未達等の要因分析は、成果報告時の聞き取りによって行っています。それらの目標未達等の課題解決に向けてのサポートは、これまで協議会としては行えていなかったのが実情です。しかし、この状況は好ましくないという僕個人としても考えているので、今年から指導にも注力していきたいと思っています。また、協議会事務局の熊本県酪連としては、従来より経営指導や技術指導、各種研修会等を実施して各農家の状況把握や情報共有等を行っています。

続いて山崎様からの質問に対する回答です。「酪農経営の機械導入は県域一括、施設整備は各地のクラスター協議会が対応していると思います。具体的な分担の方法や工夫している点があれば教えてください」。おっしゃるとおり機械導入は、うちの協議会が県域で担当して施設整備は地域クラスター協議会で対応しています。機械導入事業についても一部、地域協議会で対応しているところがあり、その地域の農家さんは、だいたいJAさんがされているので、会員農家さんは、その協議会から事業に取り組んでいます。

また、特に工夫している点はないのですが、強いて言うのであれば、窓口団体である畜産協会を通じて同一農家による複数の協議会をまたがった要望が発生しないようにしています。

次に「平成28年から全酪連が参加していますが、何かきっかけがあったのでしょうか」。きっかけは県内の菊池市に全酪連の預託牧場が開設されたことをきっかけに利用推進と指導推進を図り、子牛預託による省力化や増頭をクラスター計画にも組み込むことで活用し

ています。

次に「今後の課題には、酪農経営の規模拡大の希望と暑熱対策が取り上げられていますが、取り組む手順等について現時点で考えられることがあれば、話せる範囲内で教えていただけますか」。規模拡大については、現状、うちの協議会としては施設整備の場合は直接的なサポート体制がありません。従って規模拡大においては、それ以外の機械導入や資材の供給、また素畜の斡旋、その他、営農指導を通して経営サポートをしていくことになります。

次に暑熱対策について、最も効果的、即効性がある方法としては、牛体へ直接水をかけることが効果的で、その次に送風装置の設置や屋根散水等の実施があります。その他、毎年、最新情報が必ず出てくるので、そういう内容を気にしながら根気強く、うちとしては指導、農家さんとしては対策をしていくしかないと考えています。

次に「目標達成に関して、飼料高騰を受けての給餌メニュー変更や暑熱対策など生産面に関する事項と労働力不足の人材に関する事項は、少し異質な印象です。人材に関する事項は後回しにされがちですが深刻な課題であり、新規就農を受け身で待っていては大変なことになると予想されます。現時点で構想、具体的な方策があれば、お話しいただける範囲内で教えていただければと思います」。まず飼料設計や暑熱対策については、県酪連事務局の営農指導を通じて継続することになると思います。

新規就農については、就農も営農も含めて簡単なことではないので難しい課題だと思っています。各都道府県でもそうですが、熊本県の場合は新規就農確保のための協議会があるようで、そこで農業種を超えた連携がされています。今後とも県や地域組合等の連携を通じながら、十分なサポート体制を引き続き整える必要があると思います。

また、うちとしても新規就農希望者が実際に現れたときに、すぐにマッチング先が提供できるよう、今後、各農家さんに対して廃業や第三者継承の意向があるのかは調査しておく必要があるのかなと、個人的には考えています。以上で山崎様からの質問回答は終わります。

次に伊東様からの質問に対する回答です。「酪農が盛んではない地域だけに苦労は多いと思いますが、今度も九州で酪農を維持するには、従来のような繁殖和牛と組み合わせる経営なのか、少ないながら大きな牧場が必要なのか、どう思いますか。また、夏場の影響で繁殖成績も悪化するばかりですが、どのような暑熱対策をすれば効果があると思いますか」。こちらは上司とも相談する時間がなかったので僕個人の意見として述べさせていただきますが、まず、どちらの形態も酪農の維持には必要と考えています。まず繁殖和牛と組み合わせる経営については、今後は和牛繁殖農家さんも減少していくと考えられますが、

その状況下では国としても和牛肉の輸出拡大を掲げている中で、肥育素牛の減少が危惧されます。そこで酪農家がET産子による肥育素牛生産のための重要な立ち位置となり、それが酪農を維持するための一つの要素で、また継続する意義にもなると思います。

次に大規模農家の必要性について、今後、生乳の安定供給や生産基盤維持のためには必要と考えています。ご存じのとおり昨今、離農農家が多く、それにより生乳生産の減少にもつながっていますが、廃業して減少した地域の生産量を賄うことは家族経営のみでは困難であるため、地域の生産維持のためには経営力のある雇用型の大規模農家も必要かなと思っています。

次に暑熱対策についてですが、先ほどから説明しているとおり、屋根散水や飼料添加剤等の利用を農家さんとしては取り組んでいます。最も経済的で効果のある方法は牛に直接水をかけることのようにです。

次に飼料米生産活用協議会の〇〇さんからの質問と回答です。「主な取り組みとして、自給飼料利用の拡大とありますが、それによりどれほどのコスト削減が見込まれているのでしょうか」。あくまでうちの協議会としては、令和4年度までは自給飼料作付面積拡大による販売額の増加だったり、令和5年からは飼料枠での34%以上国産率ということですので。計算はしたことがなかったのですが、今回、令和6年度の飼料枠で取り組みがあった農家さんで試しに試算してみたところ、農水省の「飼料をめぐる情勢」から1TDN/kg当たりで単純計算したら、1農家さん当たり年間約200万円のコスト削減が見込めると考えています。

次に「これまでの導入件数が約500件とすごい導入実績ですが、成果目標達成状況の数値を見ると未達成となっており、これを達成させる効果的な手法は何だとお考えでしょうか」。この問題に対しては協議会としても長らく頭を抱えていることです。これについては事務に追われて、現在、農家指導が十分に行えていない状況なので今年からはしっかり農家指導に入り、一つずつ課題を解決していくしかないと思っています。

また、「ご参加いただいているみなさまに質問です」という内容にあることで「協議会で新規申請する場合、どのような方法・目標設定なら目標達成できるとお考えですか。ぜひともご教授お願いします」という質問があります。うちの協議会は従来、コスト削減について計算する項目が多く、また算出が難しく検証時の達成が難しくなることと、飼料設計の見直しや餌の切り替えにより飼料価格が増減しやすい。また、事業としてコスト削減に取り組むことが難しいなどの理由から成果目標と設定していませんでした。そのため、おのずと増頭すれば目標達成が可能な販売額の増加や、自給飼料生産を拡大すれば目標達成可能な飼料優先枠に取り組んでいました。

しかし今年度の一般枠での酪農家の取り組みが再開されたものの、成果目標の一つの販売額の増加が単位頭当たりの販売額増加となり、それこそ農家さんにとっては、かなり困難な取り組みになっていると感じています。その中で県内の酪農家からは事業要望が上がっているので、取り組みの内容をより精査しつつ、コスト削減や所得の向上といった事業の成果目標も今まで取り組んでいませんでしたが、必要になるかと考えています。こういった内容も、今、協議会でも模索中なので機会があれば議論させていただけたらいいかなと思っています。

次に土肥様からの質問に対する回答です。「中心的経営体はどこでしょうか」。まず、県内の酪農家様、また、コントラクターが中心的な経営体のメインになっています。

次に「県の酪農経営体全部を対象としているのでしょうか。熊本県には、酪農を対象としたクラスター協議会が他にもあると思います。すみわけはどのようにしていますか」。先ほども申し上げたとおり他の協議会もございますが、どこの協議会に参加し事業を要望するかは、基本的に会員農家さんはJAが事務局をしている協議会から機械の要望をするようになっています。

次に、「クラスターの機械導入実績は、飼料関係にかかわる機械の導入が多いですが、なぜでしょうか。また、家畜管理等他の目的での機械の導入はないのでしょうか」。まず要因は、恐らく自給飼料面積が多いからかなと考えていて、確認してみたところ、令和5年の熊本県としての実績で畜産統計を見ていると牧草の作付が全国6位で、トウモロコシも全国5位、稲発酵粗飼料は全国1位で、自給飼料作付面積が多いから、それに伴い飼料関係の機械導入も多いのかと考えています。また、それ以外の機械の導入実績ももちろんありまして、それ以外で言うと、バルククーラーや餌寄せロボット、哺乳ロボットの導入実績が多くなっています。

次に「成果目標の評価にあたっては、外的要因を排除するための価格補正を行うことになっていますが、その他にも成果目標の達成度の評価にあたって外的要因を排除するため必要な補正項目や手法について、いかがお考えでしょうか」。うちの協議会では、これまで価格補正が必要な取り組みとして生乳生産量増加による販売額の増加しか取り組んでいなかったのですが、これを念頭に回答しますが、乳価の価格補正について個人乳価の形成は複数の要素が絡み合い算出されているので、どこからが内的要因で、どこからが外的要因かを算出するのは極めて困難な状況です。そのため、うちの協議会で乳価一律で価格補正していますが、要領に定められた方法で価格補正を行うと農家によっては補正後の検証結果に有利、不利が生じる場合があります。そのため、うちの協議会では価格補正は、報告年度の個人乳価に事業実施前年度の個人乳価÷報告年度の個人乳価を掛けて、実質、事業実

施前年度の個人乳価を実績に掛けて算出しています。

最後に「今後について、一部の農家からは牛舎増築・規模拡大の意向とありますが、この一部の農家の経営形態に共通する特徴は何でしょうか」、多く聞いているわけではないのですが僕の耳に入ってきている農家さんの特徴としては、クラスター事業や自己資金で既に規模拡大している法人農家で、いずれの農家さんも自給飼料生産をしており、また経営者はいずれの農家さんも40代と比較的若いのかなと感じています。以上で、うちの協議会に寄せられた質問に対する回答は以上です。

司会 ありがとうございます。では同じように何かあれば、どうぞ。

土肥 スライドとお話をオンラインで見せていただきましたが、かなり外的要因が影響して事業の達成目標の達成率が近年は低くなっているというお話でした。クラスター事業では、成果目標の評価に当たっては、外的要因を排除するための価格補正を行うこととされています。そうであれば今ある価格補正だけではなく、例えば、ばかなことを言って申し訳ありませんが、増頭を目標とした場合に、外的要因を排除し補正するという考え方はできないのかなという思いで聞いてみました。

〇〇 うちの協議会で取り組んでいるのは、あくまで搾乳牛頭数増頭による生乳生産量アップによる販売額増加だったので増頭に係る補正は、もともと目標の観点上、厳しいのかなと思います。

司会 山崎先生、どうぞ。

山崎 丁寧なご回答ありがとうございました。最後の人材のところでも個人的にはというお断りがある中で、廃業や第三者継承を希望する方の調査にかからねばいけないかなというお考えが出てきているという話でしたが、熊本県内で認定農業者のアンケート調査をやったところ第三者継承でもいいというような、県全体の認定農業者のデータは出ています。やはり対面というかアンケートというか畜種によってということは、熊本はすごく農業が盛んで人が多いから大変なように思いますが、1人で全部やるのではなくてどこかとタイアップしてとか、酪農協単位でやるとか、何か具体的に進めていくイメージはおありでしょうか。個人的なという前提でお答えいただければと思いますが、よろしく願います。

〇〇 それこそ回答を考えながら、ぱっと思いついたことでしたが、うちはあくまで県酪連なので、農家さんに調査するとしたら組合を通じてになると思います。組合を通じて、例えば今なら Google フォームから匿名でアンケートを採って回答を集めたら、比較的、農家さんも匿名ならあまり包み隠さずに第三者継承の希望を予定したいということがあれば、そういう回答をいただけるのかなと思っています。

司会 他にどなたかございますか。長時間突っ走ってしまいまして。岡本さん、どうぞ。

岡本 ありがとうございます。価格補正の話が出たので補足です。価格補正の他にというとなかなか、私も、ぱっと思い浮かぶものはないのですが、ただ価格補正といっても、いろいろな外的要因が関与するものがあるかと思います。例えば販売額の増加であれば販売価格、販売単価を補正するとか、生産コストの削減であれば配合飼料の価格や元畜の価格を補正するとか、とにかく関係する項目は全て価格補正することが必要なのかなと思っています。

また、もう一点、令和6年度補正の話があったので、これも補足です。令和6年度補正の事業からは目標の一つである販売額の増は、単位頭羽数当たりの販売額の増と変更になりました。厳しいとか厳しくないとか、いろいろなご意見を頂いていますが、牛豚なら1頭当たり、鶏なら1000羽当たりを基本としています。変えた経緯としては、近年の飼料価格の高騰等によって特に輸入飼料に頼った規模拡大が、かえって経営の負担で負の影響を及ぼしてしまったという面もあったので、そういった外的要因に左右されづらい安定した形態を育成することが重要だろうということで、単純な増等による目標達成ではなく生産効率をしっかりと改善して、そういうところに重きを置いて、今回、変更することとしました。繁殖雌牛なら1頭当たりの年間の子牛出荷頭数を増加させるとか、1頭当たりの分娩間隔を短縮させるというのが考えられるかと思います。

単位頭羽数当たりの販売額の増加が難しい場合は、飼料費は難しいかもしれませんが労働費の生産コストの削減をするとか、高付加価値を付けて販売額を増加させるといった目標も、これまでどおり検討していただければと思います。よろしくお願いします。

〇〇 ありがとうございます。

司会 ありがとうございます。他にないようであれば休憩に入りたいと思いますがよろしいですか。

私の時計は見えませんが、3時35分まで15分間の休憩をします。再開は伊東先生の説明から入り、休憩の間にコメントーターの3人の先生と以降の議論するテーマを絞って、再開したときに提案したいと思うのでよろしくお願いします。それでは15分間お休みください。

〈休憩〉

司会 3時35分になったので再開します。再開は伊東コーディネーターへの質問を伊東先生からお話ししていただきます。

伊東 私に対する質問は大きく分けて二つあります。一つが例えば北川養鶏場クラスター協議会の〇〇さんから出ているように、「乳量上げるための方法や受胎率を向上させるための方法がありますか」とか、熊本県酪農クラスター協議会さんからの「頭数を増やしている途中だと思いますがどうでしょうか」という質問です。この質問はどちらかといえ、規模を拡大したけどうまくいっているのですかという質問だと思います。

もう一つは、後でみんなで共通の話題として話をしたらいいと思いますが、いわゆる経営継承という立派な名前を付けて、経営継承するという話をしているけど実際にどうですか、うまくいきそうですか。例えば、酪農家ではない人を社長にして大丈夫ですかとか、地元ではない人が農場長になって地元はどうなのですかという質問だと思います。

最初の規模を拡大したことがどうなのかという話をします。一つは、畜産クラスター事業は収益性の向上という話になっています。現実問題として酪農の乳牛に限って言うと、規模を拡大して成績は上がっていません。〇〇さんはどうですか。そういう感覚を持ちませんか。

後で、また質問になりますが、もっと言うと、例えば40頭を飼っていた人が、つなぎで80頭にしたら40頭のときのような1頭あたりの成績が80頭のつなぎにしてもなったかということ、なかなか、ならないです。

分かりやすく言うと、今回800頭ぐらいの牧場を作って、その前にも500頭ぐらいの牧場を作っていますが、1頭あたりの成績でいくと乳量は落ちています。もちろん繁殖率にしても何にしてもいろいろと工夫していますが、なかなか1頭あたりの収益性は下がっているんです。質的に下がっているものを量でカバーしようとしていますが、そこまで量のカバーができていないのが現状です。

この現状に関しては、今、鶏関係の方がいらっしゃるので鶏関係でいくと、残念なことに愛知県ではたくさんのインフルエンザが出て、すごい数の鶏が処分されています。日本の鶏は1億ちょっといるはずなので、1000万羽という10%近い鶏が処分されて卵価は上がっていますが、経営規模を拡大して後から、いわゆる育雛場。今、シェーバーさんはあるのかな。ハワードさんとか、昔で言うああいうところから、大雛を2万羽、5万羽という単位で仕入れると思いますが、そうしたところでうまくいく理由が、はっきり言って、鶏の場合はロットと申しますか、群に非常に均一性があるんですね。

言ったら悪いのですが、乳牛の場合は日本の育種の関係からいって100頭乳牛がいれば100頭違っているんですね。一頭一頭の個体乳量は上がってきたけど、それをそろえ

ることが、なかなかできません。

ですから40頭をつなぎで使っていれば40頭のつなぎのような一頭一頭を見て、餌を調整して一頭一頭的能力を引き上げることができるけど、それが200頭、300頭、今回のように800頭となってきたら、800頭の牛が全部同じ能力で、全部同じものだったらいいけど、人と同じように違っています。そうすると800頭の牛に合わせた個体管理はできないではないですか。そうすると群管理にすればするほど一頭一頭のわずかな無駄が非常に大きくなってしまい、なかなか全体の成績が上がらないのが酪農の問題です。

ですから収益性が上がっているかというところでは上がっていません。答えを言うと、1頭あたりに30キログラムぐらい絞っていたのが、頭数を増やしてしまったら28.5キログラムとか1割弱減ってしまっています。餌代が少しでも上がってきくと収益性が悪くなってしまい、経営が厳しくなっているのが現状です。

この前、私のAB研修でもC研修でも使ったかな。規模を拡大したら、かえって経営が苦しくなって、こんなことをしなければよかったという酪農家が多いのは、そこに原因があると思います。

それから人の問題に関して言うと、人材育成が非常に重要だということは酪農に限った話ではありませんが、農業は経営者がなかなか出てきません。いわゆる農業をやる農家の方はたくさんいらっしゃいますが、特に経営者はなかなか出てこない。さらに、なぜ厄介かというところ、酪農の場合は日本の制度自体に良い悪いはあると思います。例えば日本のように、全国何ブロックに分けて生乳の価格を決めて取引するという制度自体には良い面と悪い面があって、冬場の牛乳が余っているときでも牛乳を捨てなくてもいいようにという非常に良い点もありますが、ある意味、酪農家から物を売るという判断を取ることになります。

だから、今、鶏屋さんのように、こちらに手を伸ばしてもらえるように中身は一緒だけどパッケージを変えてみるという工夫をすとか、肉牛だったら系統を変えて少しでも高く売ろうとか、そういう努力が乳牛の場合はどうしてもしなくてもいいのです。しなくてもいいというのは悪いのですが、そういう状況になっているので酪農家において経営者が、なかなか出てきません。一生懸命、牛乳を搾るのが好き、乳牛が大好きという方はたくさんいらっしゃいますが、銀行と交渉して自分の経営計画を出してというのは、なかなか出てこないのが酪農の牧場の問題点です。

質問にあったように、今回、たまたま組んでいる浜名酪農業協同組合の元組合長だった伊藤光男は酪農組合を大きくしたり、いろいろとやっている人なので経営感覚が鋭いし、本当に金に関しては細かいです。何銭というものの考え方でやっていらっしゃるの、餌

でも何円ではなく何銭という話をされます。それぐらい細かい方なので経営に関しては非常に厳しいです。

そういう方はいいでしょうが、ただ、その方も実際に全てができるわけではないから酪農のことが分からなくても、800頭という牧場を造ると人事把握とお金の計算が必要だから、どこかの会社の雇われ社長だった男を見つけてきたというだけの話です。

これに対して「どうやって見つけるのですか」という質問がありましたが、はっきり言って運しかありません。ある程度、欲しいなと思う人を見て、話をしてみています。それから会社組織なので、極端なことを言えば、経営能力がないと分かれば牧場長といえども、どんどんクビにしています。これは申し訳ないですが、そうでもしない限りできません。株式会社というふうに完全に別会社なので、それができるわけです。例えば親子で名前だけ株式会社にして、お父さんが社長、息子が専務というところだとそういうことはできないので、お父さんの思いどおりにならなくて息子さんとけんかしているようなところが山のようにあるだけの話です。

それから質問にあったところで答えないといけないからあれだけど、熊本県酪農クラスター協議会の〇〇さんからの質問です。協議会を運営する上で苦労したことといいますが、今回、私どもは単に酪農組合の元組合長と組んでいます。そのことで苦労したということはありません。

どのように引き抜いてきたかに関しては、ある程度、運もあります。それから牧場長あたりは北海道でも規模を拡大した牧場が10年以上たっているもので、土肥先生の質問にあったように、給料が上げきれないものだから、どうしても牧場長がどこかにいい牧場があるという引き抜きのようなことがあります。変な話、今はSNSの時代ですから、こういう牧場があると分かれば引き抜きは出てくると思います。

〇〇さんのほうで、九州の日田で今度大きな牧場が造られるのを知っているでしょう。九州の大分県の耶馬溪で、ドデカい牧場を造るという話です。

〇〇 また造るんですか。

伊東 耶馬溪ファームのようなものを造ろうとしているではないですか。

〇〇 知らなかったです。

伊東 そういう話が出てくるし、牧場長さんの雇われている人であれば出てきてしまいます。やっぱり引き抜きはあると思います。

それから質問の中で、「個人的には、同じ場所で農家が第三者継承を行う場合、補助金返還となる可能性があります」。これは質問の意図が分からなかったのですが、私自身は経営継承するのであれば、親子でなかろうが第三者でもいいのではないかと考えています。

その辺りはどうなんですか。

〇〇 一応、事業上の実質的な経営者が変わる場合は、親子関係者でなければクラスター事業は、原則補助金返還らしいです。

伊東 親子でなければ駄目だと言ったら、おかしな話になってしまいますよね。

〇〇 そうなんですよ。なので自分もそこは気になって、どのように考えられているかなと思いました。

伊東 そんなことを言えば、その地域に大きな牧場が入ってこられなくなってしまうのではないですか。

〇〇 そうですよ。

伊東 どんどんやめていってしまえば、その地域の熊本県の菊池でも酪農家が増えることはないでしょう。減っているでしょう。

〇〇 そうですね。

伊東 そこに、どこかの餌会社が資本をかけて大きな牧場が入ったら、その人たちもクラスター事業をやればできるのではないですか。

〇〇 もちろん新たに取り組むことはできると思うのですが、今までクラスター事業で導入実績があった場合に第三者継承になると、補助金返還になってしまう可能性があります。

伊東 それもおかしな話だね。岡本さん、どうぞ。

岡本 第三者継承ですが、財産処分の手続きでは無償譲渡に当たるので、適切な手続きを行えば補助金返還にはなりません。第三者継承も可能です。手続きの際は継承先が継承元と同程度の利用規模かどうか等は確認が必要になるので、事前に必ず事業実施主体に相談していただければと思います。

〇〇 長くなるかもしれませんが、今、いいですか。例えば法人の買収だと、なかなか表に公開するまで企業さんによってはできない状況がある中で、どうしても事前の連絡が遅くなってしまう場合があると思っています。その場合も補助費金返還になると大変なのかなと。M&Aというのですかね。株式譲渡も、すぐに表に出せる内容ではないと思うので、そこで例えばどうしても連絡が遅くなったときも補助金返還になるのは、さすがに農家さんにとっても、こちらから申し訳ないなという感じで、その点はどうですか。

岡本 M&A を早くから公表できないということはあると思いますが、何かしら、そういうことを考えているとか、何か情報があるという段階で事前に内々に相談していただくことが必要かなと思っています。結局、先に継承してしまって後から手続きというのは認められないので、そこは必ず事前というのが必要になってきてしまいます。

山崎 今のお話でよろしいでしょうか。ご案内のとおり、〇〇さんがおっしゃるように

M&Aは守秘義務契約を早くに締結して折衝しているというのが実態です。1年ぐらい前ですかね。『全国農業新聞』で僕が「現場から考える経営継承」という連載を書いたときにM&Aのことにも触れましたが、農業の場合は守秘義務契約を柔軟にしないと今のように補助金返還とか、あるいは耕種だと農地の借地をしているところが多いわけで、それが守秘義務のままていくと、そんなのは貸さないぞという話にもなってくるので、守秘義務契約の締結を当事者関係者だけ早々に結んでしまうのはうまくない。補助金については行政にも出すように、柔軟にする必要があります。ただし、行政も上司など縦のラインだけはいいいけれども、同じ課でも横の人に話しては駄目だと。そういう情報共有の仕方をしないと、農業では円滑なM&Aができない。

具体的には株式譲渡と事業譲渡が考えられますが、株式譲渡はあまりお勧めできないとか、隠れ簿外債務が出てきたりします。事業譲渡でM&Aをして後継者のいない経営から、まだ若い労働力もある、今後、経営展開可能性の高い経営が事業譲渡を受ける場合、今、岡本さんがおっしゃったように、きちんと情報を一定の範囲で共有する。そういうM&Aを広げる。

通常のM&Aは、本当に守秘義務を徹底していて破談にならないようにしますが、いわゆるステークホルダーの多い農業関係は、違う意味で事業が継続できなくなる可能性が高くなるわけですね。急に補助金返還となったら、もう破談と。ですから、いろいろな方面で農業のM&Aは守秘義務に柔軟性が必要だと話しています。ルーズになればいいわけではなくて、守秘義務は結ぶけど関係者を広げろという話です。事業譲渡に合わせて補助の申請もするのであれば買う側が早めに準備しなければいけないわけではないですか。そういう経営が必要だと感じています。ご質問の答えとは違うかもしれませんが以上です。

伊東 途中になってしまいましたが、そういうことだそうです。

それから農水省の岡本さんに聞きたいのですが、クラスター事業で協議会メンバーに入っているではないですか。例えば岡本さん、〇〇さん、〇〇さんがメンバーだとした場合、その人たちが補助事業を受けたとします。ところが何かの弾みで、私は抜けますと仮にクラスター協議会から抜けてしまった場合は、補助金は返さなければいけないのでしょうか。例えば牧場はあるのだけれど協議会メンバーから抜ける場合も、補助金は返還になりますか。

岡本 その方が取り組み主体になっていて、例えば財産処分制限期間内であれば返還が必要になる場合もあります。

伊東 そういうことですよ。例えば時々、今回の成果の話でも、しばらくしたら協議会が全然機能しなくなって、こんなものに俺は入ってられないという人がいらっしまった

ときに、「俺は抜けるわ」「おまえなんか抜けちまえ」といったら後で補助金返還になるのだという話を聞いたものだから、そういうことはあるんですね。

岡本 そうですね。まだ目標達成していないとか、財産処分制限期間内で、まだ償還が終わっていない期間であれば発生する可能性はあります。

伊東 分かりました。変なことを聞いてすみません。

次に兵庫県の〇〇さんからの質問で、「例えば高いところから牛を見るための監視通路はクラスター事業の対象内となるのでしょうか」。これはなっていないです。なぜかという、最初、私たちが大きな牧場を造ったときに、とても下から見たのでは何も見えないから、いわゆる体育館でいうと中2階の上から見られるような通路がないと無理だといって、安くはなかったけど監視通路を作ったのです。それに対して農政局さんから、これは違いますと言われました。

もちろん嫌味的に言うと、Q&Aという未定稿で定めていないけど山のようにいろいろなことが書いてある。正直言って、これ自体は、あまりにも細かく決めすぎじゃないのと思っていますが、とにかくそう定めています。

それから大きなことをするとき、例えば既に畜産はすごくお金のかかる仕事なので、クラスター事業が11年、12年目を迎えて、成果が上がっているのか上がっていないのかと論議されている時期になっています。その中の一つに、規模を拡大したけど経営がうまくいっていないではないかというのは非常に多いんですね。実際に返還を停止してもらったどころか返せなくなってしまったという事例もあります。

そう考えたときに、起こった一番の理由は経営ができていないことです。経営ができていないということは、横に山崎さんがいますが、お金の管理ができないか人の扱いができないか、どちらかなんですよ。両方かもしれない。そういう人間的なものがあって、農業自体がそうだというのではなくて、もっと指導するような者が出てこなければいけなかったのだろうなと思っています。でも、今さら元に戻るわけにいかないのであれば、もっと経営者的な者が、例えば銀行とか酪農でいうなら乳業メーカーが牧場を造るような時代にならない限り、きついのだろうなと私は思っています。

実際に餌会社が肉牛農家をやっていますからね。だって日本ハムが豚屋さんもやっているわけですから、明治が牧場を持ってもいい時代になるのではないかと思います。そのときに果たして、明治乳業や雪印に補助金を出すべきかどうかは、また別の議論だと私は思います。

私に対する質問はだいたいそういうことで、はっきり言って酪農に関しては、実際に規模を拡大している中でうまくいっていないですね。それはなぜかという、乳牛という不

確実性の高い動物だから、規模拡大しても一頭一頭管理を機械化ではなかなかできない。そうすると横に土肥先生がいらっしゃいますが、一頭一頭の管理を赤外線や何かでぱっと分かるようなスマート的なものの機械化が、まだ日本は遅れているということです。

例えばパーラのデータ一つにしても、酪農家の方は読みきっていないです。データはたくさん出ているのだけど、よく数字が出ているけど、何だかよく分からないという方はたくさんいらっしゃいます。オリオンさんやデラバルさんの搾乳ロボットのデータを見ても読みきっていないですから、そういう意味で勉強不足だと思います。もう一つはお金の計算と人の扱いができない方が規模を拡大してしまっていたのが問題だと思います。あまりやっていると時間がないので、私に対する質問はそんなものだと思います。

司会 ありがとうございました。確認に移りたいと思いますが、何かここはどうでしょうかということはいかがでしょうか。

土肥 牛自身、乳量をそろえた牛は確保できると思います。ただ体形、性質、飼料効率だとか、そういうところまでをそろえるのは無理です。要は、哺乳類を遺伝的にどんどん均一にしまうと、近交係数が上昇し病気にかかりやすくなり、能力も落ちてしまうということで、すべてを均一にはできないと思います。

それから、いろいろなデータが出力されてきても読みきれていないということでした。人間の能力には限界があり、データがたくさんあるから読みきれないというのは仕方のないことです。そのために今は、まだ畜産の世界では実現していませんが、他のビジネスの世界では、AIがデータを読みこんで、AI自身が判断した結果を人に提示しています。そのうち搾乳牛関する生のデータを出力するのではなく、データを読み込んでAIが飼養管理について提案する時代が来るかもしれません。

司会 ありがとうございました。今の話題に移ってしまいましたが、AIの話で何かありますか。ここでいったん、この話題は切っても大丈夫ですか。それでは切りまして、残り1時間でテーマを絞って皆さんと情報交換をしていきたいと思います。

今日、皆さんのお話を聞くと、飼料用米は山崎先生に振ってよろしいですか。

山崎 限られた時間でいくつかテーマを掘り下げたいというお話で、飼料用米のお話が今日は共通的に出ていたもので、それについてご意見いただきたいと思います。

いわゆる養鶏における米粒としての飼料用米と大家畜でのWCSですか。そういう使い方と、もう一つポイントになるのが政府の助成ですよね。飼料用米を作る、あるいはWCSを作る。あるいは、今、北海道から東北、関東、本州にも下りてきている子実コーン、そういったものをやるかという。飼料用米の用途、政府支援、米だけが生き残る道なのかどうかという三つの要素で、ご意見等があればお話を聞きたいと思います。

助成金については、まず政府の真意についてのところを、すみません、岡本さんに先陣を切っていただいて。架空の話をしてもしようがないのですが、将来どうなるかは経済的な期待があると思います。必ずしも膨らませ過ぎてはいけないと思うので、客観的に岡本さんから飼料用米の政府支援について、あるいはその他の代替の国産飼料に関して口火を切っていただくことは可能でしょうか。お願いします。

岡本 飼料担当ではないのでそこまで詳しい説明はできないのですが、やはり政府としては飼料高騰の中、国産飼料を増やしていこうという方針ではあるので、そういったところに重きを置いて、6年補正でも7年当初でも国産飼料を増やす事業は額も増えています。国産飼料を増やすという点では、皆さんもどンドン力を入れていただけるとありがたいと思っています。

それから子牛の価格が下がっていて問題になっていますが、クラスター事業の実証支援事業でも2000万円枠をR6年度補正でも付けているので、子牛価格も政府は力を入れてやっているところではあります。いろいろな事業があるので皆さんも調べていただいて、そういった事業に参加していただくことが必要かと思います。追加があれば、また追加させていただきます。

山崎 サジェスチョン、ご助言、よろしく願いいたします。政府としてクラスター事業に限らず国産飼料は支援していただいていると。先ほど来の発表の中でも、クラスター事業ではない他の支援事業を使っているというご発言もあったと思います。

まず、僕の手元にある資料で言うと、北の三重県からの順番ですが、北川養鶏場クラスター協議会様から飼料稲に関して今後に期待していることや取り組んでいく方向性、あるいはこうなったほうがいいのではないかと三つの視点から、ご発言いただけるとありがたいです。視点は僕の言っていることに限定せず、〇〇さんの言いたいことを聞きたいというだけですが、よろしく願いします。

〇〇 すみません、難しいですね。

山崎 大きくてごめんなさい。そうしたら会場に来ていただいている〇〇さんはどうでしょう。お願いします。

〇〇 それこそ私たちのクラスター協議会は飼料米生産活用協議会なので、もちろん今、食用米の価格高騰で、どンドン耕種農家さんが飼料米から食用米にスイッチされている動向に対して何らかの手を打っていただきたいというのが一番の期待です。岡本様がおっしゃったとおり、国産飼料を増やすという意味では私たち飼料用米は必ず必要だと思います。

もちろんコーンがそういうふうになっていくということかもしれません。それだったら

あなたたちもしなさいということかもしれませんが、今まで稲作をやっていた者に急に来年からトウモロコシをやれと言っても土地も違うし、できるわけがありません。そうになったら今までどおりのことをしなくてははいけない。その中で、より多く収穫できる新しい飼料米の品種が出てきたらチャレンジしなさい。チャレンジに対する補助金や助成を出すということであれば、皆さんとしても次に動きやすくなるのかと私たちも考えております。そこら辺は、ぜひとも援助いただきたいと思っております。

方向性としては、年々といえますか毎年のように気候がどんどん変わって行って、数年前までなら取れないものが簡単に取れたり、取れていたものが取れなくなっているの、はっきり言って、5年後、10年後どうなっているのか、どの農家さんも不安で仕方がないと思います。それに対して、農水省から明確な先打つ方向性といえますか。今年は削減しますよ、来年から削減しますよではなくて、削減しますばかりだったら、それに対して新しい希望を持った若い農業をやりたい方は入ってこないと思います。

それじゃなくても今は人不足で一次産業が危ないという時代だけれども、食料自給率はどんどん減っています。この国際情勢から見て、このままだと、いざ外国から畜産用の飼料でも構いませんし、国産の人間の食べる食品が入ってこなくなった場合のことを考えたときに、一瞬にして日本の国力がどんっと落ちてしまいます。そこら辺を支えるのが政府だと思うので、その中で必ずこれだけのものは最低限作りなさいというベースは、逆に減反ではなくて増産するような仕組みを早いうちに取りっておいていただかないと、一次産業は本当になくなってしまわないのかと、私たちは思っています。

山崎 この国は2000年、米を作ってきているので、その水田を活用して米が安心して作れるようにというご意見だったと思います。

それでは中小家畜の鶏から牛に移って、その後にコメンテーターの方からも飼料用米に関してお話を聞きたいと思います。中小家畜から大家畜に移り熊本県畜産振興クラスター協議会の〇〇さん、餌、WCSでしょうか。ご発言を、よろしくお願いします。

〇〇 私も現場から離れていて農家さんの詳しい話をお聞きしていないのですが、飼料米の作成は何軒もやられている方はいらっしゃいました。現在は異動先が変わってしまって現状を把握していないので、すみません。

山崎 ありがとうございます。熊本県酪農クラスター協議会の〇〇さん、酪農からどうでしょう。

〇〇 まず意見というか、希望、要望になりますが、一つ目が令和5年、6年と飼料枠でしか酪農家は上げられなくて、令和7年度から状況は変わってくると思いますが、まずローダーの取り扱いをもう少し融通が利かせてほしいなということがあります。そこは補助事

業という観点上、仕方のないことかもしれませんが、例えば飼料枠でせっかくローダーを入れたけど給餌や飼料調製でローダーを使ってはいけなくなっています。バンカーサイロを持っている農家さんはバケットを入れられますが、WCSしか自給していない農家さんはローダーを入れたときにベールグラブしか入れられません。そうなったときに、いきなりロールをそのままミキサーに入れるとミキサーに負担がかかるので、できれば破碎してからミキサーに入れたいのですが、その場合、ベールグラブではなくバケットを使ってやりたいということではあるのですが、その利用方法は駄目だという指示を受けて入れられなかったのが現状です。ここはもう少し状況を鑑みて融通を利かせてほしいという要望が、まず一点です。

もう一つは、年末に補正予算を要求する中でニュースをちらっと見ていて、自分はあまりWCSの助成金の仕組みを十分に理解しているわけではないのですが、令和7年度は営農計画書で食用米を作るか飼料用米を作るかの修正期限を延長するというので、それこそ食用米の自給を鑑みて耕種農家さんがどちらかを選ぶという選択期間を長引かせるということがありました。そうなった場合、畜産農家としては途中で飼料用米予定だったのが食用米になると餌確保の計画も立てにくくなり、畜産農家的には1年間のスケジュール取りも難しくなるのかなと感じています。

その場合、片や畜産では専用品種を植えろと言いつつも、耕種農家が対応しようと思えば専用品種よりは食用品種を植えるようになると思うので、そこら辺も畜産農家ばかりというのはよくないと思いますが、うまいことまとめられるようになるのか確認したいです。

例えば、それこそ耕作放棄地も増えているので、飼料用ではなく食用米をがんがん作ってもらい余ったものを飼料用に転用して、その分、価格は下がってしまうので価格をその分を補填する等の対応を決めた形でするのもありなのかなと思っています。全然そちらの事業のことは知らないのでも既にあるということであれば教えていただきたいので、ご意見をお願いします。

山崎 岡本さん、ご対応を振ってしまってもいいですか。期限の延長は僕も新聞でしか見ていませんが心配しました。よろしくお願いします。

岡本 私から明確に答えることはできないのですが、どういった事業があるかは農産局に聞いてみないといけないので、また聞いてみてお答えできることがあればご連絡します。

司会 中胡に情報を頂ければ。

山崎 岡本さん、それでは中央畜産会の事務局の中胡君にご連絡いただければ、皆さんに展開していただけたと思います。

岡本 分かりました。

山崎 今、飼料米の話は、作付だけではなくて実際に家畜に与える工程までを含めた柔軟な対応という要望だったように思います。一連のことについて、また別途議論が深まればと思います。ここまでお聞きいただいて、伊東さん、土肥さんに。

伊東 私の立場上、餌を作らなければいけないという牧場の関係なので、堆肥の処理も兼ねて餌を作りたい。今、〇〇さんが言ったように、たくさん田んぼをやっていないところはあるのですよ。田んぼがあって全部をやっていないだけで、この田んぼの一角はやっていないけど他はやっているという田んぼがあります。全部が全部やっていないということはありませんよね。

そうすると酪農家の人たちがトラクターで入ろうとしたときに一番ネックになるのは、あそこの田んぼは耕作放棄地なんだけどトラクターが入るとぬかるんでいて沈んじゃうんだというんですね。なおかつ、なぜ、ぬかるむのかといたら田んぼの区画整理で、きれいにしたら田んぼを作らなくても1年に1回は水を張らなければいけないという規則があるのでしょうか。

〇〇 5年に1回、張れという話が。

伊東 それがあって水を張ってしまうものだから、どうしてもぬかるんでしまう。だから結局、田んぼは使わないけど畑としても使えないという状況になってきます。だから酪農家としてみたら、あそこの元田んぼを使いたいんだけど、ぬかるんでしまって入れないというのは、よく聞きます。やめるならやめてくれたら全部その辺りを畑に変えて、例えばデントコーンでも作りたいけど、それすらできない。デントコーンの機械する入れないというところも多いです。

土肥 先ほど飼料用米、子実トウモロコシ、トウモロコシWCS、イネWCSの話がありました。子実トウモロコシに関して、今は北海道、東北、関東ぐらいまでは何とか栽培できますが、それより西に行くと病気の発生等があって、なかなか普及は難しいという状況ではないかと思います。トウモロコシは湿害に弱いので水田後作で栽培するときは、湿害対策をうまくやらない生産性が低下すると思います。

それに比べて飼料用米は、もともと水田で栽培するものなので、そこで作る技術と機械等は農家の方が持っており、すぐに取り組める状況です。それから、もう一ついいのは、飼料米は連作がききます。ところが子実トウモロコシを栽培する場合は、水稻、小麦、大豆などの輪作体系の中に子実用トウモロコシを組み込むことになります。

ただ、補助金関係で言うと、私もうろ覚えですみませんが、輪作体系の中でお米より高い作物を入れておけば、たぶん飼料用米を作るより補助金はよかったような気がします。今後、育種や栽培技術がどのような進展していくか分かりませんが、現時点では飼料用米の

ほうに優位性があるような気がします。

年々、気候が変わって将来的に飼料用米を作れるのかという話が出ていましたが、食用米では耐暑性の稲がどんどん育種されていて、九州ではヒノヒカリが一等米にならなくて二等米となるなどひどい状況になってしまい、熊本で言えば「くまさんの輝き」という新しい耐暑性の品種を作りましたよね。耐暑性の食用稲の品種を応用すれば飼料用米の耐暑性品種の育成も可能と考えられます。

それから牛について飼料用稲はソフトグレインサイレージにして給与します。ソフトグレインサイレージは、結構、消化が早いのですよね。だから、あまり食べさせると第一胃に対してすごく負担がかかってしまうので、トウモロコシと成分は似ていますが消化性が違うことから、トウモロコシの代替には限度ありますが、飼料用稲は非常に良い飼料だと思います。

牛の飼料として先ほど紹介のあった茎葉も一緒に収穫するイネ WCS の問題点は、逆に実がたくさん入っていると消化できなくてそのまま糞の中に出てきてしまうことです。これを解決するため、現在は実を少なくして茎葉の糖含量を高めた高糖分・茎葉型の WCS が普及していて、これを食べさせると乳牛に関しては非常に成績が上がリ、品種を育成した広島県では、肉牛にも給与しているという話を聞きます。

山崎 細かい解説をありがとうございました。今日ご参加の中で行政の兵庫県の〇〇さん、お聞きいただいているばかりでしたが、国産飼料という切り口で話題になっているのですが、何か県としてというか〇〇さんとしてご意見をご発言いただければありがたいと思います。突然振って申し訳ないのですがどうでしょうか。お願いできますか。

〇〇 今日ご参加いただいている飼料米生産活用協議会の〇〇さんにもご発表いただきましたが、国産飼料に取り組みたいという声はたくさんあるのですが、まず農家が少ないことと地域の高齢化でそもそも人手がないということで、あまり普及率が伸びていないのが現状です。

他地域ですが、肉用牛のクラスター協議会でも WCS の耕種農家さんを募ったり、利用率を上げたり、お値段を上げて、農家さんに高い値段で買ってもらえるような活動や会議などを耕種農家さんと肉用牛の農家さんも交えて年に 2 回ほど開催されている協議会もあります。そこでは徐々に成果が出てきているのですが、地域の力によるところが多いのが現状です。

山崎 地域というキーワードが出てきましたが、自社でやる方法もあるし地域という切り口でソフト部門の支援も含めて、高齢化、過疎化が進んでいる米作りの分野にどうにかして力を注ぎ込んで国産飼料を安定的に。土肥先生の話にもあったように、やはり米を作っ

た経験のある人が米を作り続けることが、地域として一つの活路のようにお聞きしました。ありがとうございました。

司会 山崎先生、どうもありがとうございました。このテーマで何か、もう一言これだけは言っておきたいということはどうですか。〇〇さん、どうぞ。

〇〇 先ほど言い忘れていましたが、いっそのこと食用米ばかり作って余れば飼料米にして補給するという、そうしてもう一ついいことがあるかと個人的に思っていて、相対的に国産の食料自給率が上がるのではないかと思っているので、今後はそこも念頭に議論していただけたらと思います。

司会 ありがとうございました。その問題になってくると行政上の仕組みも、いろいろと話をしなければいけなくなります。岡本さんだけに振るのは大変で、農水省の2階だけの話ではなくて違う階の話もしなければいけなくなるので、ご意見として賜りました。

では、このテーマはここまでにして、次のテーマである経営継承をいかにするか、畜産の酪農、肉用牛、養豚、養鶏、ブロイラーもそうですかね。全体を考えるとという話になりますが、まずは酪農で。

伊東 立場上、私に来るのは分かっていたので言いますが、実際に酪農家は、ここ数年の間にもものすごく減っています。ただ何とか、やめた人の頭数を20年前から少しずつ規模拡大していましたが、今は全体的に生乳の生産量はものすごく減っています。はっきり言って飲む牛乳を確保するのが精いっぱいという状況にまでなっています。しかも、酪農大国と言われた北海道ですら、かなり減っています。

私どもは今回、酪農家の牧場ではなく会社でそういうものを作ったかということ、地域の畜産のインフラを維持するためでした。分かりやすく言うと、乳業メーカーが、これ以上、この地域の生乳の生産量が減ると撤退する可能性があったのです。それから餌屋さんも撤退しそうでした。もっと言うと、産業動物の獣医さんがいなくなりそうでした。この地域に、ある一定の頭数の乳牛がいないと駄目だと分かっていたし、さらに浜名酪農は今から20年前にTMRセンターという牛の給食センターを作っていたものだから、それを維持するためにも必要だったので作りました。

本当は各農家が規模拡大してくれればよかったけど、そういう気はなかったし、酪農家の息子さんも、みんな町の工場に勤めに行ったり、東京の大学に行ったら帰ってこないという人ばかりだったので誰もいなくなってしまうました。新規で就農するにしても何億の金を持っている人はいないから、自分たちでやってみようということをやったのが現状です。

この前も北海道の釧路に調査に行ったときも、人口は半分以下になり酪農家も戸数が半

分になり、親子継承では切りがないというのが現状です。そうすると今は酪農に限らずどこもそうですが、経営継承をどうするのか。答えは親子間でもいいから経営を継いでもらうのが、一番、親としてはいいだろうけど、そうするのもなかなか難しい。新規で入るのも、もっと難しい。なおかつ、やめる農家に入ってくれるように研修制度を別海町でもやっていますが、そういう制度すらうまくいっていないのが現状です。

ただ一番ネックになっているのは初期投資の高さだと思います。例えばイチゴとか、熊本だと作物的にいうと、よくトマトがあるではないですか。確かトマトはハウスでやっても何でやっても、反当たりの所得が一番多いのですよね。イチゴは手間がかかるから新たにやる人は意外とミニトマトなど、そちらに行ってしまう。

要は畜産の場合は、初期投資がかかり過ぎるところに問題点があると思います。酪農に限らず鶏もそうですよね。100羽ぐらい飼っていて楽しんでいる親父はいますが、それは業として言うべきかなということがあります。そうすると初期投資を下げない限り無理だと思います。

土肥 伊東先生にした質問と同じで、初期投資も大変ですが会社としての酪農と考えたときに、そこに勤めている人の全員が牧場長になれるわけではなく、中には、ずっと従業員のままの人もある可能性もあります。その場合、ずっと酪農に勤めていけるようなシステムを作ってあげないといけないのではないかと思います。

これから、海外から来る人については、技能実習制度から特定技能制度へと変わります。特定技能制度では、日本で長く働いてくださいという目的に変わるらしいのです。そうすると外国人の方に対しても、農場に長く勤めて妻子と同居できるだけのシステムをつくってあげないと、なかなか人が集まらないのではないかと、今回、質問させていただきました。

伊東 実際、給料に関しては、売り上げに対して何%しか人件費が使えないということ自体は、はっきりしています。酪農の場合なら社会保障費を入れても売り上げの12%ぐらいです。だから、うちでも牧場の売り上げがいくらだからこれぐらいで、極端なことを言うと、本当は給料が払えないけどそれでは申し訳ないからと払っているのが現状です。だから給料に関しては完全に役付き手当です。班長になれば手当が入ると。基本給になれば一緒です。場長であれば場長手当という形でやっています。ですから何年勤めても給料はこれ以上は上がらないと、はっきり言っています。

ですから自分で独立するのか、技術を身に付けてどこかに牧場があるなら場長として行ってみるかというような言い方をしています。ですから右肩上がりです。どんどん上がるというような夢のような話はしていません。それはラーメン屋さんにも勤めていても店員には

ならないでしょう。それと同じです。

ですから世の中、セブン・イレブンができたときに、こんなのは大丈夫かしらと思っていたけど、今、セブン・イレブンがなければ、どこの人たちもみんな生きていけないではないですか。あれも逆に言うと、セブン・イレブンの肩を持つわけではないけど、会社から陳列の仕方、納品の仕方、仕入れの仕方など、ある程度の指示をして技術指導をしているわけです。それが農業でトマトの盛んなところであればトマトの営農指導をしているパターンを、酪農のほうでもっと営農指導をしていかない限り無理だと思います。

ただ、以前は農家の人が牛の餌の買い方などをやっていたけど、そういうものがどんどんなくなってしまって、今の畜産農家は『孤独のグルメ』ではないですが、そのような状況になっていますからね。ただ、鶏さんなど餌会社系列だとながっているところならまだいいけど、そうでなく酪農は本当につながっていないケースが多くて、酪農家のほうが孤独な状態にいる人が多いです。

それから今、どうやって経営指導していくのか。今回、私どもが大きな牧場を造ったのは、そうすることによって地域の他の小さな酪農家の経営インフラを維持するために造ったつもりですが、周りから理解はされません。

司会 山崎さん。

山崎 はい。私から畜産以外の事例も含めてお話をして、皆様のご意見を聞きたいと思います。伊東コンサルと土肥先生がおっしゃったことは、それぞれあると思いますが、やはり給与が上がっていくことが重要なようで、そのためには一定の規模が大きくないと受け入れることができないのも農業経営ではあると思います。その辺の展望をどうやって持ってもらうかになると思いますが、経営継承を考えたときに大規模な経営であれば給与が上がっていくことは展望できる。ないしは自営として自分が所得を増やしていくという、2通りの考え方が出てくるかもしれません。

今日いろいろなご説明を聞いている中で、やはり経営者の教育というのでしょうか。ある県では農業法人の従業員を経営者に育てるために、県の農業会議がセミナーを開いて経営者教育をやっています。言い換えると、経営内でのキャリアアップの研修には限界があるので、県段階の組織が経営能力向上を後押しすることが必要ではないかという部分が、他の営農類型でもあります。

畜産の大変なところは、新規にミニトマトならすぐ場所ができるかもしれないけど、畜産は新しい場所ではできないではないですか。今ある事業地で、それを継いで活用していくのが一番効果的だと思いますが、労働力、あるいは経営主体になる人をそこにどうはめ込むかが、今日も問題意識として、これからやらなければというお話が出ている中で、一つの経営が後継者を見つけることは無理で、やはり県段階なり横断的な組織が人を見

つけてくることも含めて、経営者能力をアップする取り組みが求められているのかなと思います。

ちなみに私が経営継承を調べていると、畜産は割と早くから日本型畜産経営継承という形で、先ほどもちらっとご紹介した北海道のリース事業のようなものや居抜きなど、問題意識は高かったように思います。これだけ規模が大きくなってきた、法人にしたからといって必ずしも後継者が生まれるわけではない。現段階になって、もう一度、畜産全体で経営継承を真剣に考えていただく時期が来ているのではないかと思います。

司会 ありがとうございます。私からも情報提供で、私が持っている仕事で映像の事業でグリーンチャンネルに番組提供をしている仕事の担当をしていますが、先日、その番組の試写をやりました。全国酪農青年女性酪農発表大会の模様で、そこの酪農の方で第三者継承でサラリーマンの家庭から、あれは富山でしたか。「clover farm」と調べれば、すぐにヒットするかと思いますが、その方の事例を紹介させていただきました。

伊東先生のところは、就労は従業員というか労働力として入りますが、彼のところは若くて酪農に熱意を持っている方を研修生として自分の経営で育てる。周りの酪農家が離農されて跡地があると。そこを第2分場、第3分場という形でキープしておいて、そこで研修をさせて、こいつならいけるなと思ったら、先ほどのラーメン屋の話ではないですが、のれん分けのように、おまえに任せるといって継承させるというやり方もあります。

その大会の審査員を武田部長が務めていました。それから、わが経営支援部のところで、担い手の授業や若手に畜産を紹介するという仕事もやっているのです、武田部長にその関連でコメントをお願いします。

武田 論点がずれてしまうかもしれませんが、私は中央畜産会に入って30年です。その当時から後継者不足と高齢化がずっと言われてきて、その当時、後継者の問題の解決について常に私の頭にあったのは、家族間での後継者育成と確保です。でも、こればかりを頭に置いておいて本当に問題が解決できるのかと考えたときに、今日も話が出たように第三者継承とか、雇用就農してから独立していく形とか、家族間だけではないところに、逆に畜産業界に身を置く私たちの頭を変えていかなければ、大変難しく解決し得ない問題ではないかと思ってきました。

ちょうど全酪連さんの発表大会に今年度、全部8事例でしたか。いずれにしても「こういうことになって驚いているんです」と代表の方も言っていましたが、そのときに発表して賞を取った方々の半分以上が第三者継承でした。今まで、そういう発表大会はなかったのです。だいたいお父さん、お母さんから代を引き継いでという方々ばかりでした。

新しい動きとして、これからもどんどん増えていくかは分かりませんが、少なくとも今年そういうことが起こっています。発表者の半分以上が第三者継承で入った。1人は酪農

ヘルパーに入って、その後にスキー場でアルバイトをして、何かの経緯で従業員として働くようになり認められてというか、こいつに会社を継ぎたいということで継承したという方々もいました。

それから、まず支援するわれわれが経営を未来に引き継ぐときに、狭い視野で物事を考えていないかなと常に気を付けながら考え、対応していかなければいけないと最近よく思うようになりました。

長くなって申し訳ありませんが、ストレートに生産現場の後継者を確保するのだというときに、私は、いわゆる畜産経営しか目線がありませんでした。だけど、待てよと。畜産業には、いろいろな仕事があるわけです。餌屋さんもあれば、メーカーもあるし、専門職なら獣医さんもいるし、医薬品メーカーさんもいるし、もっとたくさんあります。

生産現場に行きませんかというとても限られた子しか関心を持たないかもしれませんが、実はいろいろな仕事があることを若い子たちに知ってもらって、将来、畜産に関わる仕事に関心を持ってもらい関わってもらおうとか、そういうことにも着目していきたいと思っています。生産現場への雇用就農だけではなく畜産のいろいろな分野に関わって、畜産全体をこれからもしっかりと次の世代に引き継いでいくという、大きな目線で取り組み始めています。「NEXT CHIKUSAN!」とホームページを検索してもらおうと、すぐ出てくると思います。

この前も後ろにいる、うちの定家という者が神奈川県農業高校で研修会をしましたが、アンケート結果を見たら意外と畜産に関わっている仕事を知らないという農業高校の生徒はいるんですね。だから、まだまだ発掘する宝物は、そこに埋まっているのではないかなと。来年、再来年という短いスパンではありませんが、10年、20年というスパンで考えたときに、まだまだ発掘できる宝物は埋まっているように感じています。少し話がずれていて申し訳ないですが。

司会 ありがとうございます。残り時間が少なくなってきましたが、今の経営継承というか、畜産の未来に引き継いでいく人という観点で、私はこういうことを言いたいとか、こういうことを思っているというのがあればどうぞ。

土肥 武田部長がおっしゃったことは本当の話で、地震があったからどうか分かりませんが例えば熊本にある東海大学の農学部の競争率は熊本市内にある工学部の競争率より、当時は高かったのですよね。しかも畜産は結構人気があって、皆さん進学しています。その後、どこに行くかは分かりませんが、たぶん武田部長がおっしゃるように食品関係など、いろいろな農業に関係のあるようなところに行っているのだと思います。

それから私が現職時代に文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールという事業で、高校生の希望者を集めて畜産の現場、うちの場合は研究所ですが来てもらって、実際に研

研究所の中でも牛、豚、鶏を飼っているの、それらに従事してもらったり研究をしてもらったりしていました。すごく倍率が高くて選ぶのに苦労するくらい人が集まってくるのですね。その後、彼女、彼らがどうなったかは分かりませんが、そういう人たちを見ると、それほど若い方たちは畜産に興味がないわけではないのではないかという気がしていました。

その大学なり高校生の方をどうやって、より畜産に近いほうに誘導してあげるかも今の継承の話につながっているような。もっと根元のほうですが、それも重要な話ではないかと思いました。

司会 ありがとうございます。山崎先生、どうぞ。

山崎 私も千葉県立農業大学校で非常勤講師をしています。今、お話に出た学生の関心が高いことは感じます。ただ、学生が就農を考えるとときには親がやっているところに入るか、あるいは雇用で入るか、あるいは自分でやるかの3択のような気がします。そこに第三者継承という選択肢が与えられないか。

伊東コンサルがおっしゃったように、やはり、どうしても初期投資が必要になってくるのですが、親方のやっているところを継ぐのであれば、初期投資がほとんどかからない。それに向けて大学校、あるいは私立の農学部も増えています。聞くところによると中央大学にもできるのではないかという話も聞く中で、いったん研修で腰だめをして、親方の設備の整った家畜もいる畜産で就農する道を学生や彼らにも見せてあげる、イメージできるようにしてあげることは一つ必要なのかと思います。

また私どもは、どうしても就農というと若い世代を考えがちです。先ほどの全酪連の発表事例はどれぐらいの年の方か分かりませんが、この国の人口は団塊の世代が多く、次は団塊ジュニアの世代。学卒の若い人よりも少し上の世代の人口が多くて、彼らは社会で訓練を積んでいるだけ親方とうまくやれる可能性も高い。他の営農類型では実績が出ています。そういうこともあって第三者継承が成功している事例も増えています。そこには年代的に言うと、高い年代の人もいるのではないかと。実際にいると思うんですね。そういう辺りもヒントにしなから業界を挙げて取り組んでいただく必要があるのではないかと感じました。

実は〇〇さんの質問の中では、農業高校の卒業生も入ってこなくなったというお話もありましたが、先ほどの武田部長の切り替えの話も含めて、生産サイドの方のお話も時間が許す限りお聞きしたいと思いますがいかがでしょうか。

〇〇 それこそ伊東先生の本を見させていただいたときにありましたが、今の畜産業界は3Kではなく4Kだということで、それに対して今の若い人がどれだけ自分がやりたいから入れるのかといたら、世の中変わってきているのが現状だろうと思います。

今までなら高校生はどんどん入ってきていましたが、まず農業高校だとしても今までなら見向きもしない一部上場の大きな会社が、青田買いのように2年生のうちから一括で買い上げのようにバサッと高校生を自分の会社に入れてしまっているのです。そもそも説明会をしようにも生徒さんが来ない。先生方も大手のほうが安心だと親御さんに対していい顔ができるということで、こちらに対してではなく大手のほうがいいよということで、そもそも入り口がふさがっているのが事実です。

その中で経営者の継承もあります。それ以上に農業に従事する人がどんどん減っていくほうが、ものすごく大きなことだと思います。もちろん経営者も大事ですが、農業をする人自身がいなくなっている時代に、5年後、10年後どうしていくのかを真剣に考えないといけない時代に来ていると私は思います。

司会 ありがとうございます。残り5分ほどなので、伊東先生は大丈夫ですか。やりますか。

伊東 やめろというのが見えていたので簡単にやります。今、言われたように、うちも会社で牧場を造るといったときに、クラスター事業は株式会社だからということもありますが、結局、個人事業では無理ですよ、会社にしましょうよという話をしているし、人が来る4Kではないこととか休みもきちんとしています。今はそういうことをしない限り、とてもじゃないけど人は来ません。面接で最初に「休みはいつですか」と聞かれます。

岡本さんと目が合っていて悪いのですが、国会対応で朝までいなければいけないというのは来ないよ。もう、そういう時代なんだよ。俺の同級生にはいたけど、そういう時代ではないんだよ。とにかく休みもしっかりしなければ来ない。外国の方も、みんなそうです。

今は何でもそうですがSNSの時代ですから、変な話、1人の人をきちんと面接して、研修に来てくれたら丁寧に扱わないと、その人の後ろには30人ぐらいの人がいると思わないと、とても無理です。その人がSNSで「あんなところ2度と行くもんか」というと絶対に来ない、そういう時代です。

もっと言うと、人が来ないと嘆いている農家の方に聞いてみると、おまえのところなんか来るわけないだろうということばかりです。それくらい経営者の意識を変えないと絶対に無理です。逆に言うと、そういう人以外は残らないと思ったほうが、われわれサイドからいくと正解かもしれません。そういう感じがします。

司会 ありがとうございます。先ほど私が紹介した clover farm の方の年齢を知りたいということだったので調べたら、すぐ北陸農政局のホームページがヒットしまして、令和4年のときに33歳です。だから今は、まだ30代だと思います。それでは時間も来たので締めに入ります。

岡本 先ほどの〇〇さんのご意見に少し補足ですが、関連する事業があるかは私のほうで

調べてみます。一方で事業に手を挙げるにあたっては、事前の申請手続きが必ず必要になるので、後から転用して何かを受けようということ自体は難しいのかなと思います。

〇〇 分かりました。ありがとうございます。

司会 ありがとうございます。何か分かれば私経由で皆さんと情報共有をしたいと思うのでよろしくをお願いします。

それでは締めに入ります。まずは事務的な話を。開催当初にご説明すればよかったのですが、今日の情報交換会の映像と音声は録音されています。毎年ホームページにも上げていますが、情報交換会の報告書としてやりとりをテープ起こしして報告書に整えています。協議会のお名前などは出しますが個人名は出さない形で編集していきます。ただ、コメンテーターの方、われわれ、岡本さんなど公の方は名前が出てしまいます。ゲラがまとまれば皆さんに見ていただいて、ここは言い過ぎたのでカットしてください、ここは間違えていたので修正してくださいという時間を取りますので、その際には協力をよろしくお願いします。

それでは、この会を締めたいと思います。閉会にあたり中央畜産会の未来をつなぐ者ということで、こちらに支援業務の半田技師が出席しているので、今日の情報交換会に参加した感想を含めて挨拶をしていただきます。

半田 中央畜産会の半田と申します。最後にこうした貴重な機会をいただきありがとうございます。また、普段は地域が違ったりということで協議会同士のお話はできないかと思いますが、本日は、午後いっぱい、このようなところでいろいろな意見を交換していただき、先生方からも貴重なご意見を頂戴しましてありがとうございました。

私も今、畜産経営を表彰する全国優良畜産経営発表会を担当させていただいていて、こちらにも畜産クラスター事業を活用しながら規模拡大しつつ、しっかり収益性を確保している事例があります。ですから皆さん、協議会でも地域の優秀な経営者の方がたくさんいらっしゃると思うので、そういった方々を表彰のイベントなどにも推薦いただきながら、クラスター事業でこういった成果が出ているということをしっかり示していく意味でも、そうした表彰行事にも、ぜひ後押ししていただければと思います。

まとまりがなくなりましたが、本日は長い時間、貴重なご意見を頂戴しありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

司会 無茶ぶりをして、どうもすみません。われわれ中央畜産会としても先ほど武田部長が言っていたように、若手も熱意を持って畜産業界のために今後ともやっていきますので、皆さまのご協力を引き続きよろしくお願いします。本日は長時間どうもありがとうございました。これにて閉会いたします。

令和7年3月27日 発行

企画・編集 公益社団法人 中央畜産会

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-16-2
第2 ディーアイシービル 9階

経営支援部（支援・調査）

TEL：03-6206-0843（直通）

FAX：03-5289-0890

E-mail：shien-bounces@sec.lin.gr.jp

